

蔦屋重三郎
(1750-1797)
関連年表

主要参考書目 (年表)

- 1906 朝倉 / 日本小説年表、金尾文淵堂
1906 大久保 / 増補青本年表・増補続青本年表 / 新群書類従 (7)、国書刊行会
1920 漆山 / 浮世絵年表 / 芸苑叢書、吉川弘文館
1926 朝倉 / 新修日本小説年表、春陽堂
1927 沢田 / 日本画家辞典、紀元社
1929 黒田 / 上方絵一覧、佐藤章太郎商店
1929 朝倉 / 日本小説年表、付総目録 / 近代日本文学大系、国民図書
1931 井上 / 浮世絵師伝、渡辺版画店
1934 漆山 / 新撰浮世絵年表、奎光書院
1936 藤井 / 享保以後 大阪出版書籍目録、大阪図書出版業組合
1940 源 / 日本美術史年表、星野書店
1942 坂崎 / 日本画の精神、東京堂
1944 朝倉 / 日本小説年表 (改訂)、ゆまに書房
1950 仲田 / 絵本の研究、美術出版社
1952 小林 (剛)・藤田 / 日本美術史年表、創元社
1953 吉田 / 浮世絵の美 (附録年表)、創元社
1962 鈴木 / 日本版画年表 / 日本版画美術全集別巻、講談社
1962 樋口・朝倉 (治) / 享保以後・江戸出版書目、未刊国文資料別巻
1967 久松 / 日本文学史 (年表)、至文堂
1971 久松 / 新版日本文学史 全8冊、至文堂
1972 源 / 日本美術史年表、座右宝刊行会
1977 町田・永井 / 日本美術史年表、角川書店
1983-87 漆山 / 絵本年表 全6冊、青裳堂
1984 漆山 / 近世人名辞典 全3冊、日本書誌学大系、青裳堂
1985 市古・野間 / 日本古典文学大辞典 全8冊、岩波書店
1986 太田・山根 / 原色図典日本美術史年表、集英社
1993 朝倉 (治)・大和 / 享保以後・江戸出版書目 新訂版、臨川書店

浮世絵学 01 / 落款 (つたや) 蔦屋重三郎 (1750-1797) (48)

吉原細見、蔦屋重三郎版 : 238 項目。春 (01) 秋 (07)、年二回、発行。

<http://www.ukiyo-e.co.jp/102270>

西暦	和暦	干支	生年	事項	歿年(享年)
1730	享保15	庚戌	嵩谷 栄川院 蕭白 宣長	○正月、川枝豊信「からくり訓蒙鑑草」三巻(京都)。長谷川光信画「絵本御伽品鏡」三巻(大坂)。○二月、小川破笠画、英一蜂画「父の恩」二巻(市川團十郎追善、彩色摺りの早いもの)○八月、祐信「絵本常盤草」三巻。橘守國「絵本通寶志」九巻。○九月、中島丹次郎画「雛形宿之梅」三冊。○十二月、高木貞武画「野山の錦」二巻。	
1731	享保16	辛亥	三陀羅 龍水	○正月、祐信「絵本喩艸」三巻(「絵本答話鑑」の後編)。中路定年画作「画本凶貨」三巻。○近藤清春画「酒餅論」「當流小謡断錦集」。○十月、吉原萬字屋又右衛門、京島原より遊女を抱える。○沈南蘋、来日一長崎志	
1732	享保17	壬子	東江 梅崖	○正月、祐信画「女中風俗玉鏡」二巻。「咲顔福の門」五巻。高木定武「絵本御伽草」三巻。○五月、福王雪岑、二代英一蝶、懐月堂指水画「倉の衆」(俳士、豊嶋露月撰)三冊。○七月、染物絵師、野々村通正「雛形染色の山」三冊。	
1733	享保18	癸丑	応挙 玄白 蒿溪	○正月、祐信「絵本美奈能川」三巻。○九月、英一蝶、福王雪岑画「絵本東名物鹿子」(俳士、露月撰)三巻 ○川島叙清画「商人軍配記」。	
1734	享保19	甲寅	秋成 裏住 栗山 素外 治助 淇園ミカワ	○正月、政信「絵本金龍山浅草千本桜」二巻。祐信「最明寺殿教訓百首」三巻。高木貞武「絵本武勇誉艸」三巻。○四月二十四日、俳人、千山没す(紀伊國屋文左衛門)○七月、長谷川光信「絵本武勇力艸」三巻。○八月、高木貞武「画本和歌浦」三巻。○九月十日、俳人、桑岡貞佐、没す、六十五歳。○大坂の豊竹肥前掾、江戸に下り義太夫節を演ずる。	
1735	享保20	乙卯	喜三 葛蛇玉 豊春○ 清満○ 千蔭	○川島叙清、川枝豊信、没す(一説)○力士、丸山権太左衛門、長崎にて没す。○正月、橘守國「謡曲画誌」十巻。○四月、野々村忠兵衛画「絵本道知邊」(光琳風の模様画を染物に応用)○七月、橘守國画「扶桑画譜」五巻。	広沢(78)
1736	元文1	丙辰	兼葭堂	○正月、祐信「絵本有磯海」三巻。「絵本つたかつら」三巻。「四季形勢歌」三巻。	友禪(83) 東岨(67)
1737	元文2	丁巳	玉山木が 通笑	○十一月十一日、二世一蝶(長八一蝶)、没す。○六月、大岡春ト「画本福寿草」五巻。○八月、祐信「絵本磯馴松」三巻。大岡道信「押絵手鑑」三巻。○十二月、西村重信(孫三郎、石川豊信の初名)「女今川」○祐信画、甘霖作「口合算盤珍日記」(市中に出たのは元文四年正月)	
1738	元文3	戊午	菅江 白雄 子平 六兵衛	○正月、祐信「絵本勇者鑑」三巻。甘霖「筆勢武者硯」五巻(大坂)。○飛鳥山に桜を植える。	
1739	元文4	己未	重政○	○正月、祐信「絵本浅香山」「絵本池の心」。辻永寿画「絵本たはむれ草」三巻、板元、西村源六。○二月、御衣裳絵師、堀井軒(井上景堪)「花結錦総合」二巻(京都)	
1740	元文5	庚申	道八	○重政、生まれる(一説)○正月、祐信「絵本徒然草」三巻。○四月、橘守國「絵本鶯宿梅」七巻。○五月、重長画「吾妻海道」(俳書)○七月、狩野雪静「画巧潜覧」六巻。○九月一日、豊後節元祖、宮古路豊後掾、没す。	
1741	寛保1	辛酉	3/3 几董 團十郎5 =白猿	○正月、祐信「絵本朝日山」三巻。○三月、祐信「絵本千代見艸」三巻。	常行(65)
1742	寛保2	壬戌		○正月、祐信「絵本和泉川」、「絵本姫小松」。○二月、祐信「女教文章鑑」(口絵、彩色摺り)○五月、高木貞武「絵本勇武誉艸」。○春日の大宮若宮の大祭礼あり。五月、藤惇画作、板元、奈良伊勢屋庄六。	利信(35) 團十郎3(22)
1743	寛保3	癸亥	春章○ 春好○ 橘洲 焉馬	○六月、祐信「絵本大和錦」三巻。○勸進比丘尼の中宿停止となる(ある比丘尼、桜田あたりの武士と情死のため)。(雁註)春章の享年、五十歳と判明。このため、生年は寛保3。	乾山(81) 玉燕(61) 寂明(81)
1744	延享1	甲子	2/19 春町 参和 米山人 利明 董九如	○芝神明前の江見屋(上村吉左衛門)、「見当」を発明(蜀山人「一話一言」による。此以前、享保十五年「父の恩」に彩色摺りあり)。○黒本、始めて出る。○五月、寺井重信画「女文臺綾袋」○西田常清画「風俗遊仙窟」(浮世草子)。	若元(77)

1745 延享 2 乙丑	玉堂 内子 忠敬	○正月、祐信「絵本ひめつばき」「絵本若草山」「絵本福祿寿」。○十一月、橘守國「絵本直指寶」十冊。	明霞 (48)
1746 延享 3 丙寅	春水ヲ 保己一 春海 栲亭	○正月、祐信「絵本鶴の棲」「絵本都草紙」。富川房信画「白鼠妹背の中立」(黒本) ○大岡春ト模本「明朝紫硯」(支那明代の画集、初版本「明朝生動物画図」、彩色摺りの珍本)	
1747 延享 4 丁卯	文調c 江漢 介石 可笑 平八郎 玉州 洞春 韓天寿 源琦 五瓶	○六月三日、小川破笠、没す。○俳人、菊岡沾涼、没す。○正月、祐信「絵本河名草」「絵本亀尾山」「絵本筆津花」。奥村政房画「盛掛け両面鑑」(黒本)。鳥居清経画作「近江源氏よつぎの雛形」(黒本) ○十一月、寺井重信画「女文章都織」。北尾雪坑齋「小倉塵」。○三月の頃、不忍池に茶店、楊弓場、講釈場が出来繁盛。	破笠(85) 静山 (83)
1748 寛延 1 戊辰 7/18	田善 曙山 蘆朝 茶山	○正月、祐信「絵本貝歌仙」「絵本花の鏡」「絵本十寸鏡」。北尾辰宣画「小倉塵」(大坂、「擅画」と署名)。山本重春画作「紅血缺血昔物語」(黒本)。○長谷川光信画「大学倭絵抄」。○「芥子園画伝」(翻刻)	守國(70)
1749 寛延 2 己巳	赤良 狙仙 艶鏡 義躬 直武 岸駒 関月 芙蓉双キ 楚満人ヒト 湖鯉鮒 成美	○読本の嚆矢、都賀庭鐘(近路行者)作「古今奇談英草紙」(竹原春朝齋画か) ○正月、寺井重房「絵本浜真砂」。祐信「絵本小倉山」「絵本武者備考」「絵本勇武鑑」。○二月、祐信「難遊の記」「貝合の記」。○七月、守國「有馬勝景図」。○九月、守國「運筆粗図」。○雑司が谷、鬼子母神境内に孝女久米、麦藁の角兵衛獅子を売り始める。○不忍池の島より西茅町の裏へ板橋を四ツ折にして架橋する。水に映り、八ツに見えるため、八ツ橋と呼ぶ。池の鯉、多く死んだため、すぐ壊す。	
1750 寛延 3 庚午	唐丸(蔦屋) 在中 全交 谷峨	○正月、清満画「化物義経記」(黒本)。祐信「絵本垣衣草」。寺井重房「絵本千賀浦」。北尾辰宣「絵本信夫摺」「絵本教訓草」。大岡春ト「和漢名画苑」。○九月、法眼周山「和漢名筆画英」。○十二月、寧齋温然「鏡中図」(鞞画) =エイ	尚信 (44)
1751 寶曆 1 辛未 11・3 改元	金埒 不昧フマイ 守礼 仙厓 甫周 鷹山ヨウザン 徳三	○此年より吉原に女芸者といふもの出る。○山本義信「吉原細見里巡礼」○正月、中路定年(京都の画家にして、雲岫と号せり)「画本必用」。長谷川光信「絵本藤の縁」○七月、大岡春ト「画史会要」○九月、山田信齋撰「二十四輩図彙」○十一月、寺井雪焦齋「画本拾葉」。○彭城百川「元明画人考」	祐信 (81) 南海 (76)
1752 寶曆 2 壬申	清長○ 北山 月溪 鵬齋	○正月、山本義信画作「酒田金平渡辺竹綱鬼熊退治」(黒本)。石川豊信「絵本東の森」「絵本ことわざ草」。西川祐尹「絵本鏡百首」「絵本花の宴」。長谷川光信「絵本かがみ伽」「絵本今様比事」。○九月、高木貞武「本朝画林」。○十一月、西村重長「桃太郎物語」○十二月、岡山友杏「絵本艶歌仙」○此年、劇場にて販ける所謂芝居番付と称する狂言絵本出づ。中村勘三郎坐の七月狂言「諸たつな奥州黒」(二冊、鶴屋版、画工の署名なし。清倍か) ○此年六月二十二日より池の端新地の茶屋五十九軒、其の外、家数餘多引払いを命ぜらる。多くの女を抱へ置きて猥りなる事ありしゆゑなりといふ。	百川 (56) 清信 2 (51)
1753 寶曆 3 癸酉	哥麿○ 眞顔キョウカ 雅雅メシモリ 穎川 惟信 豊雅	○正月、祐信遺画「絵本雪月花」「絵本糸ざくら」。西川祐尹「絵本鏡百首」「絵本みつの友」「絵本勇士艸」「絵本唐詩仙」。月岡雪鼎「絵本龍田山」「伊勢物語」。北尾雪坑齋「絵本謡姿」「絵本大江岸」。寺井重房「画図伊勢海」。長谷川光信「絵本えくぼのちり」。○五月、大岡春ト「丹青錦囊」。○六月、重長「絵本江戸土産」。○十月、春ト「ト翁新画」。○此年、皎天齋國雄「女筆蘆間鶴」。○三月十三日より九月晦日まで、薩摩外記座にて、からくり人形芝居興業。	珍重 清春 不角(92) 祇徳 長春 (71) 尊純 (63)
1754 寶曆 4 甲戌	頭光ツムリ 七五三助 真澄 元成	○七月二十二日、羽川珍重没す。行年七十七歳。○清重「寶寺富貴の槌」(黒本)。○正月、雪鼎「絵本言葉花」。西川祐尹「絵本かほよ花」「絵本硯の海」。北尾雪坑齋「絵本武者海」。○四月、長谷川光信「日本山海名物図絵」五巻。○十一月、北尾辰宣「絵本武者兵林」。○鳥居清満「臯需曾我橋」二巻(市村羽左衛門座の狂言絵本、版元鶴喜)。西村重長「百千鳥艶郷曾我」(中村座の狂言絵本)。	珍重(77)

1755 寶曆 5 乙亥	市人イイト 玄随 雅嘉 南北 4 蘆雪	○正月、雪鼎「絵本和歌園」「絵本武勇名取川」。西川祐尹「絵本氷面鏡」。北尾雪坑齋「絵本浦千鳥」。長谷川光信「絵本都鄙問答」。漕川小舟「見立百花鳥」。可耕画「絵穂風流庭訓」。大岡春ト「画本福寿草」。 ○八月、橘保國「絵本野山草」。○三月十六日より深川永代寺にて、信州戸隠明神九頭龍権現開帳。この時神楽を舞ふ神子美人の聞こえあり。其名をおゑんといふ。踊り子の事を俗におゑんといふ諺はこれより生まれりといふ。	始興 (73) 敬輔 (82) 玉蟾 (83)
1756 寶曆 6 丙子	栄之○ 中良村 友汀	○六月、黒川亀玉没す。行年五十五歳。或いはいふ五十八歳と。或いはいふ二十五歳と。○正月、雪鼎「絵本好禁酒宴桜」。東嬰画「絵本七寶珠」。北尾雪坑齋「絵本倭論語」。長谷川光信「絵本鎧歌仙」○六月、雛本「古筆絵図」(版元、京都、吉田善五郎)。○勝間龍水、英一蜂「発句帳」(未見)。○古面堂「続百化鳥」(前編は前年の刊行、絵師、漕川小舟)○此年、本郷新町家の畠、町家に改まり、料理茶屋を出し、女を抱えて酌を取らせる。世人、大根畑と呼ぶ。	亀玉 (55) 重長 (80s)
1757 寶曆 7 丁丑	俊満○ 玄沢 (磐水)	○三月、上野清水堂開帳。画工雪仙齋尚徳「景清牢破り」(額)。○正月、豊信「絵本末摘花」。西川祐尹「絵本常盤謎」。寺井重房「吾妻百人寶艸」。中山吾八「画本時勢鑑」。松村文助「画本諷見立艸」。茂義堂「絵本深名帳」。文月堂「画本洛陽祭礼鑑」○二月、寺井重房「絵本和歌録」○九月、仙華堂百寿画「和漢衆画苑」。○洒落本の嚙矢、「異素六帖」。	蘆舟 (59) 團十郎 2 (81)
1758 寶曆 8 戊寅	定信 徳瓶 良寛 弘賢	○正月、西川祐信の遺書「絵本三津輪草」。寺井重房「百人一首浪花梅」。月岡雪鼎「絵本姫文庫」「花福百人一首」。北尾雪坑齋「絵本玉の池」。○怡顔齋松岡玄達「桜品」「介品」。○一松子画「春のみなと」。	淇園 (55) 竹ギツ 祐尹 文耕 (58)
1759 寶曆 9 己卯	五十八 一珪 川柳 2 素絢	○正月、春川師宣画「絵本列仙画典」(江戸、辻村五兵衛再刊。元版は元禄二年、菱川師宣「異形仙人絵つくし)○正月、豊信「絵本武勇太凶那」。○七月、春川甫政「描金画斧」。○十月、雪鼎「絵本高名二葉草」。龍水、嵩谷「桑岡集」(俳書)。	南郭 (77)

1760 寶曆 10 庚辰	北齋○ 定丸 鬼武 静山マツカ 訥言トツゲン	○四月二十八日、英一蜂、没す。行年六十四歳。○正月、勝川春水「絵本武者軍鑑」。雪鼎「絵本神武百将伝」。長谷川光信「絵穂きまま艸」。○重政(二十三歳)「絵穂荒獅山」。	一蜂(70)
1761 寶曆 11 辛巳	政演○ 巢兆 抱一	○正月、富川吟雪画作「女敵討故郷錦」。勝川春水「絵本友千鳥」。武村祐代「絵本長柄川」「絵本初音森」「絵穂恵方謎」。月岡昌信「絵穂泰平楽」「絵本深見草」「絵本菊の水」「絵本諸礼訓」。寺井尚房「絵本勇名草」。長谷川光信「絵本初代草」。○五月、建部孟喬「寒葉齋画譜」。	元丈 (69)
1762 寶曆 12 壬午	春英○ 慈悲成 鞠塙 萬寶 理齋 蘭山カキ	○八月二十五日、西川祐尹、没す。行年五十七歳。○正月、雪鼎「東國名勝志」「雲水閣雜纂」。○二月、勝間龍水「絵本海之幸」。○十一月、豊信「女今川」。○清経「銀杏榮常盤八景」。	祐尹(57)
1763 寶曆 13 癸未	北寿○ 一茶 曳尾庵 文晁	○正月、春信「絵本古金欄」(春信の処女作なるが如し)。豊信「絵本花の緑」。勝川春水「絵本武者鑑」。西川祐代「絵本御代春」。月岡丹下「絵本勇見山」。○七月、西川祐代「女今川姫鏡」。○十二月、春信「絵本諸芸錦」。○六月、俳優荻野八重桐船に乗りて中洲に遊び、酔興の餘り蜆を取らんとして川へ下り立ち、深みへ落ち入りて溺死せり。風来山人「根なし草」といへる読本をつくりて其事を記述せり。	清倍 2(58) 春ト(84) 高遊外 (90) =賣茶翁
1764 明和 1 甲申 6・13 改元	政美○ 亀祐 龍麿 高尚	○正月、鳥居清秀画「車塚曾我物語」(黒本)。清倍「尋陽江世猩々」。清重「三鱗あけぼの染」。勝川春水「絵本万葉集」。豊信「絵本江戸紫」。月岡丹下「絵穂源氏山」「名数和歌選」。月岡錦童「画本蘭奢待」。○十二月、春信「絵本花葛羅」。北尾雪坑齋「絵本草錦」。	政信(79)
1765 明和 2 乙酉	豊廣○ 一九 錦城 如元	○此年、版木師金六、彩色摺を創む。蓋し、曲亭馬琴、北村節信等の説。○此年、絵曆、多く出づ。○正月、豊信「絵本千代の春」「絵本喩問答」。北尾雪坑齋「絵本緞摺草」「絵本恵の海」。勝間龍水「山幸」。重政「漢楚軍談絵尽」。○二月、勝川春水「絵本紅梅武者」。○七月、雪鼎画作「如月百人一首競鑑」。	
1766 明和 3 丙戌	應瑞	○正月、春信「絵本さざれ意志」。重政「絵本初日山」「絵本深みどり」。北尾雪坑齋「絵本盤手山」「女七寶操庫」。下河邊拾水「絵本二葉松」(京都)。探古齋「初心墨画草」(大坂)。○七月、雪鼎「画本操草」。○九月、北尾雪坑齋「倭百人一首玉柏」。○此年、亀戸、龍眼寺に萩を植える。○此年豊岸島埋立地成る(俗に蒟蒻島)。	

1767 明和 4 丁亥	馬琴 金鶏 詩仏 南岳 木米 蘆州 春暁齋	○正月、春信「絵本千代の松」「絵本春の友」「絵本童の的」。勝川春水「絵本金平武者」。重政「絵本多武岑」。○二月、下河邊拾水「絵本福緒縮」。○九月、北尾雪坑齋「彩色画選」（この書フキボカシの彩色にて世に彩色摺の嚆矢なりなどいふ説あり）「絵本文武談」「女類題小倉錦」。	探元 (89)
1768 明和 5 戊子	香樹 治助 2 長根 融思 彦磨呂	○二月十一日、奥村政信没す（「名人忌辰録」）○正月二十七日、英一舟没す（英一蝶の養子）。○此年、大雅堂画作（？）「春鬪拆甲」。○正月、春信「絵本続江戸土産」（正編は重長、寶曆三年刊）「絵本八千代草」。重政「絵本吾妻花」「絵本藻鹽草」「画本歌雅美久左」。下河邊拾水「絵本高名鑑」。馬淵忠治「絵本軽口福笑」。柳原源次郎「絵本武者録」。	白隠 (84) 一舟 (71)
1769 明和 6 己丑	豊國○ 京山 五山 榛齋 薫 融川	○正月、重政「絵本浅むらさき」「絵本勲功艸」。春信「絵本武の林」。豊信「絵本八代の春」。下河邊拾水「倭詞接木花」。北尾雪坑齋「都百題女訓綱目」。○七月、馬淵仲二「絵本若菜種」。○此年、「明和伎鑑」（絶版）○四月八日、湯島境内にて、和泉石津大社笑姿（えみす）開帳。巫女、おなみ、おはつ、舞う。	探鯨 (80s) 真淵 (73) 蘇門 (46)
1770 明和 7 庚寅	春亭○ 牧之	○正月、鈴木春信画「よしはら美人合」四巻、「絵本浮世袋」二巻。春章、文調「絵本舞台扇」三巻（役者似顔絵本）。鈴木鄰松「一蝶画譜」。柳原源次郎「絵本深山猿」「増補國見山」。○十二月、豊信「絵本あけぼの艸」三巻。○春信、没一-half 日閑話	春信(46)
1771 明和 8 辛卯	北馬○ 慊堂	○春信「絵本春の錦」。重政「絵本さかえぐさ」。宮川春水「役者名物袖日記」。橘江「職人部類」。柳原源次郎画「絵本倭詩経」。陰山梅好画「狂歌浪花○」（大坂）。○十月、雪鼎画「和漢名筆金玉画府」六巻。○十一月、下河邊拾水「興歌百人一首嵯峨邊」。○大雅・蕪村ノ十便十宜一宜風図年紀	
1772 安永 1 壬辰	一齋 了阿	○七月三日、佐脇嵩之歿す。行年六十六歳。（英一蝶門人にして一翠齋、果々観、東窓齋等の号あり）○正月、守岡光信画「商人生業鑑」五巻。淇風楼画涼画「當世たわけばなし」。其蝶画「今様こけころも」（以上二武、浮世読本）。○五月、越秀齋照俊画「狂歌たからぶね」。○田沼意次、老中となる	嵩之(66) 熊斐 (80)
1773 安永 2 癸巳	國政○ 豊彦 平々山人	○清長「江戸容儀曳綱坂」（市村座番付絵本、清長二十一歳）○正月、春章「絵本伊勢物語」「錦絵百人一首」。重政「絵本子育艸」「絵本義経記」。弄簾子画作「絵本江都二色」。○三月、英一蜂画「英筆百画」。○投扇庵好之撰、泉花堂三蝶画「投扇式」。春重（江漢、二十七歳）「俗談口拍子」。	
1774 安永 3 甲午	黙老	○正月、鳥山石燕「彩画鳥山彦」二冊（彩色は世にいふフキボカシなりといふ－安間貞翁の話－武江年表）。○重政「絵本よつととき」。酔茶亭「文武智勇海」。○十月、山本越鳥齋「画図珍選」（大坂）。○子興（石燕社中）「俳諧午のいさみ」。○小田野直武ノ解体新書（挿絵）。	凌岱 (56)
1775 安永 4 乙未	歌政○ 掖齋 徹山 栄信ガ 南嶺 楠亭	○北齋「楽女好子」（北齋十五歳の彫り）。○大川中洲築立地、町名を三股富永町と称し、茶見世をかけならべる。○投壺の技流行る。（京都、大内熊耳の門人、田江南「投壺指揮」「投壺矢勢図解」。）○恋川春町画作「金々先生栄華夢」二冊（青本の嚆矢とす）○正月、清長「風流物者附」（清長、二十四歳、処女作に非ず）。春信「教訓いろは歌」。春章「錦百人一首あづあ織」。下河邊拾水「児童教訓伊呂波歌」。○四月、下河邊拾水「花葉百人一首」。○政美（三治郎、十五歳）（逸題黄表紙）（榮邑堂版）。○中山高陽「画譚鶏肋」。	千代尼 (73)
1776 安永 5 丙申	武清 篤胤 歌國 雪旦 三馬 五七	○正月、政美「天狗初庚申」（処女作、青本）。石燕「画図百鬼夜行」。重政、春章「青樓美人合姿鏡」三巻。重政「絵本千々武山」。拾水「絵本武者大仏桜」。○三月より秋の初めまで麻疹大いにはやりて人多く死す。為に際物として清長画「童麻疹のあと」二冊（青本）○三月、桜井桂月「画則」五巻（桂月は雪舟十三世の裔）○俳諧さびしおり、写楽の俳諧二句あり。	大雅 (54)
1777 安永 6 丁酉	豊國 2○ 清政○ 可楽 十江 菱湖 竹田 鯉丈 忠以ガ ザネ	○北齋、十八歳にして春章の門に入る。○正月、石燕「水滸画潜覧」。湖龍齋「偏狹挺論」。竹原春朝齋「狂歌寝ざめの花」。○七月、墨江武禅、高嵩谷、流光齋、部關月、桂宗信「狂歌ならびの岡」○久豊画「當世穴知鳥」。○茶屋女、桜川おせん（仙台路考とあだ名さる、浮世絵似顔絵あり）○小田野直武ノ不忍池図一下限（江戸在任）	内記広守 (73)

1778 安永 7 戊戌	竹洞 海屋 在明 述齋 團十郎 6	○正月、石燕「絵事比肩」。春章「絵本威武貴山」。高橋其計「絵本続舞台扇」。英一蝶原画、鈴木鄰松編「郡蝶画英」。○六月、石川幸元「俳諧鏡の花」。○九月、山川昭俊「狂歌無心抄」。○政演「おはな半七開帳利益札遊合」(十八歳、処女作、青本) ○春常の画ける青本数多あり。世人誤りて春章と目す。○浦邊源曹、谷久和、芳川友幸、蘭徳齋春童など、数々の小説に画く。	團十郎 4 (68)
1779 安永 8 己亥	景文 阮甫 春琴 米庵	○哥麿、豊章と署して「寿々はらゐ」「おきみやげ」などの洒落本を画く。○正月、石燕「続百鬼」。豊信「絵本教訓種」。湖龍齋「役者手鑑」。拾水「画本瀧の流」。橘保國「絵本詠物選」。	風来山人 =源内 (52)

1780 安永 9 庚子	北溪○ 山陽 義董 千春	○正月、重政「絵本武徳鑑」「和漢詞徳抄」。拾水「絵本雨宿り」。喜三二作、春町画「富留久知喜」。○九月、春朝齋「都名所図会」(名所図会の嚆矢)。○十月十五日、山岡明阿弥歿す。行年六十九歳。○十一月、耳鳥齋「絵本水や空」。○春朗「一生徳兵衛三の梅」(青本)「めぐる比翼塚」(北齋の処女作)。○南陀伽紫蘭「玉菊灯籠弁」(窪俊満、二十四歳)。	明阿弥(69) 直武 (32) 高陽 (64) 浚明 (69)
1781 天明 1 辛丑 4・14 改元	守部	○湖龍齋「混雑倭艸画」。石燕「百鬼夜行拾遺」。重政「俳諧名知折」。○四月、鶴岡蘆水「隅田川兩岸一覽」。○八月、菱川春童「見た京物語」。○北齋是和齋「本性銘署有難通一字」。○豊章、歌麿と改名、志水燕十作「身貌大通神略縁記」。清長、如閑房「當世鳥の後」(浮世読本)。○永代寺にて鶴が岡八幡宮本地、愛染明王、頼朝公髻観世音開帳。巫女、おすて、美人にて錦絵に描かれる。	蕭白 (52) 若冲 (78) 加村
1782 天明 2 壬寅	岸岱 半江 淡窓	○清長「絵本武智袋」。耳鳥齋「画話耳鳥齋」。重政「絵本時津艸」「絵本将門一代記」「絵本八幡太郎一代記」。○三月「翠釜亭戯画譜」(俳優の似顔絵)。○春英「大坂土産大和錦」。春山「擲討鼻は上野」。○魚佛、是和齋の号(北齋)	親和 (86) 魚彦 (60)
1783 天明 3 癸卯	種彦 道八 2 与清 信節 梅逸	○正月、窪俊満「画鶴」。湖龍齋、春章、重政「両節■」。勝尾春政「絵本見立仮譬尽」。耳鳥齋「徒然■か川」。○七月、政演、政美「狂文寶合記」。○丹羽桃溪「みをつくし」。○司馬江漢、銅版画を創製。○天明の飢饉	蕪村 (68) 可笑 (37) 半二 (59) 卯雲 (76) 也有 (82)
1784 天明 4 甲辰	華山ヨヤマ 二三治	○正月、石燕「百鬼徒然袋」「通俗図画勢勇談」。政演「吉原傾城新美人合自筆鑑」(六枚続き錦絵)。○古阿三蝶「大倭智恵親玉」「寿御夢想妙菓」「天光地潜地探」「八代目桃太郎」「三國一大通の本地」「其見乎有難山」「通世界二代浦島」(青本)。○六月、麻尚武「色摺巻紙合」。○流光齋「且生言語備」(大坂)。坂東薪水「梅幸集」。	高芙蓉 (63) 玉瀾 (57) 貞丈 (70) 宗固 (82)
1785 天明 5 乙巳	海僊 泉石 文京	○栄之「其由来光徳寺門」(青本)。○北齋、春朗を改めて、群馬亭と号す。○正月、清長「絵本物見岡」。重政「源氏百人一首錦織」。○八月、政美「江都名所図会」一卷。(藍摺りに朱と藤黄の彩色を用い世人に珍とせらる。)○九月、橘國雄「芳齋襍画」。○十一月、嶺琴舎慶子(瀬川富十郎)「慶子画譜」三巻。○春川友重「狂文棒歌撰」。つむり光「俳優風」。雪蕉齋「絵本拾葉」。○政演「令子洞房」(洒落本)。	清満(51) 豊信(75) 曙山 (38) 鶴亭 (64) 雪岑(85) 葛蛇玉 (51) 丹邱 (66)
1786 天明 6 丙午	國貞○ 清澄 杏所 慶賀 玄々堂	○正月、重政、春章「画本寶のいとすぢ」。重政「絵本吾妻挾」「絵本八十字治川」。哥麿「潮干のつと」「絵本江戸爵」。桂宗信、耳鳥齋、瀬川慶子「つべこべ草」。司馬江漢「六物新志」。○十月、下河邊拾水「源頼光昔物語」。○豊國「無束話親玉」(処女作)。○政演「後編小紋新法」。	雪鼎(77) 宋紫石 (72) 幽汀 (66) 慶子 (68)
1787 天明 7 丁未	英山○ 重信○ 月齋 景保 尊徳	○正月、清長「彩色美津朝」。哥麿「絵本詞の花」。重政「絵本武者鞋」「絵本錦衣鳥」。政美「絵本吾孀鏡」「絵本都の錦」。○五月、哥麿「不仁野夫鑑」。○松平定信、老中となる。	春常 蓼太(70) 尚実 (71)
1788 天明 8 戊申	清峯○ 戊申 容齋	○朋誠堂喜三二作、行麿画「文武二道萬石通」(青本、三冊)絶版の命を受く。○正月、哥麿「画本虫糸ラミ」。重政「絵本花異葉」「絵本琵琶湖」。○九月、長谷川光信「鳥羽絵扇的」。○十二月、橘石峯画「唐詩選画本」(五言絶句の部、五巻) ○政てる(政演門人)「眞字手本義士の筆力」。勝川春泉「浮世草紙」。○豊丸「鳴通力」。礪川亭永◆「青樓五ツ雁金」。千杏「女郎買の糠味噌汁」。内田新好「一目土堤」。京傳「夜半の茶漬」(洒落本)。○京都、大火、刻版及び図書多く焼失せり。	石燕 (77) 一蜂 可有 賀邸 (66)

1789 寛政 1 己酉	笑顔 星巖 文一 由豆流	○青本絶版処分のもの。春町作、政美画「鸚鵡返文武二道」(「文武二道萬石通」の後編)。唐来三和作、長喜画「天下一面鏡梅鉢」(以上二部、白河楽翁公の政策を風刺)。石部琴好作、政演画「黒白水鏡」(天明年間、佐野善左衛門が、老中田沼意知を刃傷に及びしを戯作)。「逸題、怪談草双紙」(大坂) ○正月、春章「三十六歌仙」。重政「歴代武将通鑑」。○三月、政美「来禽図彙」。部關月「狂歌つのみ草」。拾水「訓蒙図彙大成」。○八月、哥麿「狂月坊」。○此ころより、挿画ある図書、最も多く行なわれる。	春町(46) 東作(64) 几董(49)
1790 寛政 2 庚 戌	英泉○ 美成 春水夕が 東里山人	○正月、哥麿「絵本駿河舞」。春章「絵本接穂の花」。春潮「絵本榮家種」。重政「絵本武将記録」。政美「絵本武隈松」。寺沢昌次「絵本武勇大功記」。○八月、三熊花顛「近世畸人伝」。○九月、雪鼎「女庭訓御所文庫」。○十月、流光齋「画本行潦」(大坂)。	典信(61) = 栄川院 守礼(40) 川柳(73) 北海(68)
1791 寛政 3 辛亥	應爲 應震 團十郎 7	○正月、重政「絵本福寿草」。政美「画本纂怪興」。拾水「絵本千代の松」。○三月、京傳著「錦の裏」「娼妓絹飾」「仕掛文庫」の三部の表に特に教訓読本と記せし段不埒なりとて手鎖五十日の刑に処せられ、板元蔦屋重三郎は身上半減闕所に処せられる。○五月、春朝齋「大和名所図会」(大坂)。○餘夙夜「五経図彙」。高田圓乗「唐詩選画本」(五七言排律の部)。	旭山(59) 白雄(54)
1792 寛政 4 壬子	眞虎 椿年 光	○正月、哥麿「絵本銀世界」「絵本普賢像」「絵本和歌夷」。俊満、等琳「狂歌桑之弓」。拾水「忠孝曾我物語」。○皆川淇園、東山書画展を主催(毎年春秋、1792-98)。	春章(67) 保國(76) 百亀(80s)
1793 寛政 5 癸丑	國直○ 鐘成 華山ワハ	○重政「唐詩選画本」七言絶句続編、「絵本将門一代記」。岡田玉山「絵本黄昏草」「絵穂太平廣記」。春朝齋「絵賛常の山」「鳥羽画あくびとめ」。○三月、勝山琢眼画「搦扇志」。○四月、狩野正榮「芭蕉翁絵詞伝」。○谷文晁/公余探勝図巻一落款○浮世絵に女性の名を書き入れることを禁止一類集撰要。	耳鳥齋 小松軒(74) 子平(56) 全交(44)
1794 寛政 6 甲寅	國安○	○日光廟造営あり。○大童山文五郎○正月、政美「絵本武勇一の筆」「女今川小倉文庫」。清線館主人「絵本世吉の物競」。流光齋「絵本花菖蒲」。京傳「絵兄弟」。柳々居辰齋「狂歌三十六歌仙」。○四月、北齋、叢春朗と署して「狂歌聯合女品定」。○六月、岡田玉山「住吉名勝図会」。○十二月、政美「諸職画鑑」。○一九作、京傳画「初役金烏帽子魚」(一九の処女作) ○写楽、役者大首絵を描く(1794-95)。	思孝(65)
1795 寛政 7 乙卯	一蕙 翁満 金水 保全	○春章「絵本松のしらべ」(遺作)。春常「百體百人一首吾妻鑑」。重政「絵本たとへ草」。政美「教訓鄙都言種」。豊廣「狂歌三十六歌仙」。○栄之「怪物つれづれ雑談」(青本)。二代目春町(行町)「萬歳諷諸神柱立」(青本)。 ■ = 草冠 + 恵	應舉(63) 韓天寿(49) 玉仙(52)
1796 寛政 8 丙辰	霧崖 一峨 養信 南北 5 其一	○北齋、百琳宗理と称す「帰化種」○正月、哥麿「絵本百千鳥」。慶遊齋歌政画「常棣」(俳句集)。春朝齋「和泉名所図会」。俊満、等琳「狂歌百さへづり」。岡田玉山「絵本頼光一代記」。○九月、春朝齋、春泉齋、桃溪、友汀、中和「摂津名所図会」前編四冊。(後編八冊は寛政十年刊)。○清線館蘆朝「絵本たのしみくさ」。	文調(70) 光(43) 源鱗(65) 龍水(66)
1797 寛政 9 丁巳	廣重○ 國芳○ 拙堂 保孝 雪麿	○正月、哥麿「絵本天の川」「絵本譬喩節」。北齋、重政、等琳「狂歌柳の絲」。緑毛齋榮保画「集外三十六歌仙」。梨本祐為画「職人尽発句合」。清長、春潮、春好、春英、豊國「美満寿組入」。二柳齋吉信「ころばぬ先の図会」。○五月、關月「伊勢参宮名所図会」。○八月、政美「鳥獣略画式」。○十一月、政美、春泉齋、友汀、中和、在正、素絢、訥言、応挙、応受、月溪、文鳴、光貞、艸偃、維恵、永俊、大雅堂、夙夜「東海道名所図会」。○長沢蘆雪/山姥図絵馬一銘 ■ = 王 + 奇	唐丸(48) 關月(51) 重三郎(48) 源■(51) 洞春(57)
1798 寛政 10 戊午	榕庵	○三馬作、哥麿画「辰巳婦言」(洒落本) 絶版処分。○正月、重政「四季交加」。政美「絵本大江山」。拾水、春暁齋「絵本諸人道しるべ」。戀川吉町(石燕門人)画「画本賛獸録禽」。○仙台の螻齋社中画「優游一寄」。	菅江(61) 玄隨(43) 團十郎 6(21)
1799 寛政 11 己未	春村	○町奉行の布令、華美なる一枚絵・・・○北齋、宗理の称を門人宗二に譲り、北齋辰政と号す。○正月、北齋「江戸勝景東遊」。哥麿、豊國、国政「俳優楽室通」。關月「山海名産図会」(遺作)。国政、春好、春英、俵屋宗理「今日歌白猿一首」。○五月、中和、艸偃、文鳴「都林泉名勝図会」。○十月、政美「人物略画式」。○十二月、北齋、秀成「こず糸のゆき」。○司馬江漢「西洋画談」。	蘆雪(45) 玉州(53) 元融(67) 六兵衛(62)

1800 寛政 12 庚申	豊芥子	○北溪画、鹽屋色主作「南門鼠」(洒落本)、絶版 処分となる。 ○ 正月、政美「山水略画式」「絵本太平記」。北齋「東都勝景一覽」。豊國「若紫」(狂歌書)。豊國 「戯子名所図会」。一九画作「夷曲東日記」。北馬「狂歌花鳥集」。○七月、歌政「願廻糸」(名古屋 屋)。○如圭「役者百人一衆化粧鏡」。○十二月、松好齋半兵衛「戯場楽屋図会」。○松平定信、 文晁「集古十種」刊行開始。○伊能忠敬、蝦夷地を測量。	春朝齋 若冲 (85) 義躬 (52)
1801 享和 1 辛酉 2・15 改元	椿山 一鳳 坦庵 磐溪	○六月、梨木祐爲歿す。○正月、哥麿「絵本四季花」。北齋、栄之「女房三十六人歌合」。豊國 「俳優三階興」。鈴木芙蓉「熊野名勝図会」。○三月、松好齋半兵衛「嵐雛助死出の山風」。拾水、 春泉齋「百人一笑」。○八月、宗理「插花衣の香」。○九月、竹原雲峰「戯場節用集」。○十一月 、桃溪「河内名所図会」。○北齋、此年より画狂人と称せり。	祐爲(63) 顯常 (83) 宣長 (72) 蘆庵 (79)
1802 享和 2 壬戌	豊重⊕ =豊国⊖	○子興画、成三楼作「婦足禿(ふたりかむろ)」、絶版処分となる。中和画、籬島作「絵本年代 記」初編五冊、絶版(版元、京都、出雲寺文次郎) ○京傳「浮世絵類考・追考」。○五月、木の 元才荘、焼絵を再興し、会席を設く。○菊麿、喜久麿と改む。○正月、重政「絵本高麗嶽」。北 齋「絵本東都遊」「絵本忠臣蔵」「五十鈴川狂歌車」。豊國「絵本時世粧」「俳優三十二相」。岡田 玉山「実語教画本」。半兵衛「俳優兒手柏」。北齋画、富士唐麻呂編「潮来絶句集」。○二月、春 暁齋「世渡名所図会」。北馬「狂歌まくらのうち」。○六月、俊満「狂歌左鞆絵」。○八月、中和 「絵本年代記」。政美「魚貝譜」。	橘洲(60) 兼葭堂 (67) 董九如 (59)
1803 享和 3 癸亥	鶴寿	○芝居絵本数多出版。一月、春英、豊国画、三馬作「戯場訓蒙図彙」八巻五冊。豊国画、篁竹 里作「絵本戯場年中鑑」三冊、(劇道の秘密を洩らせしとして太夫元の苦情あり、絶版処分)。豊 国画、焉馬作「役者此手嘉志和」二冊。如圭画「戯場画史」山水之部、二冊。画工不明「戯場 一覽三座例遺誌」前編一冊。○此年、或いは前年、疱瘡、流行。一九作、貞之画「疱瘡請合軽 口ばなし」(紅摺)。○高嵩溪信宜、額画「猩々舞」(浅草観音堂)。○正月、重政「絵本三鼎倭 孔明」。京傳「奇妙図彙」。北齋「絵本小倉百句」。豊廣、豊國「御伽かこのこ」。○六月、重政「 絵本江戸桜」。辰齋「新撰狂歌五十人一首」。○十一月、耳鳥齋「かつらかさね」。	艶鏡 (55) 良沢 (81)
1804 文化 1 甲子 2・19 改元	長英	○四月十三日、北齋、百二十畳敷の達磨を画く(音羽、護国寺) ○五月二十七日、岡田玉山「 絵本太閤記」絶版(大坂)。○五月、春英、春亭、豊國、哥麿、月麿、手鎖五十日の刑(江戸)。 ○九月、「絵本拾遺信長記」絶版。○正月、哥麿「吉原青樓年中行事」。北齋「山また山」。豊春 「絵本江戸錦」。豊廣「絵本東物語」。豊國「俳優相貌鏡」。如圭「役者用文章直指箱」。○八月、 辰齋「狂歌巴流駒」。○十二月、武清画、京傳作「優曇華物語」(読本、應擧の七難の画を参照。 写生を加味し稀に見る妙画なれど、売れ行き少なかりし) ■=崖一山	嵩谷(75) 嵩雪 梅■ (73) 道八 (65)
1805 文化 2 乙丑		○正月、重政「寫眞花鳥図会」。北齋「狂歌百囀」。○二月、松好齋「役者演真砂」(大坂)。○ 三月、中和「木曾路名所図会」。○四月、辰齋「狂歌吾妻集」。○文晁「名山図譜」。抱一、文晁 、武清、文一、鐫木雲譚、島田元旦、三好汝圭「名花交叢」。○喜久麿、月麿と改める。	五十八 (47) 大江丸 (84)
1806 文化 3 乙丑	鴻山	○琉球人来朝、廣重十一歳にて其の行列を写生。○三月四日、政演の家宅(銀座)類焼。○浅 草観音、大坂の人を日本堤で盗賊から守る。浮世絵あり。○正月、春暁齋「年中行事大成」。玉 山「会席料理細工包丁」(大坂)。○三月、玉山、東野、熊岳「唐土名勝図会」(兼葭堂藏版)初 集六冊、勝れて妙なり-英泉「無名翁随筆」) ○江戸大火。	哥麿(40s) 嵩溪 (74) 融川 (38) 白猿 (66) =團十郎 5 治助 (73)
1807 文化 4 丁卯	是真○ 貞秀○ 種員	○正月、春英「絵本勇壮義経録」。清長、豊國、春好、宗理、辰齋、北鷺「追善数珠親玉」。盈 齋北岱「袖玉狂歌集」。春泉齋「遊女大学教草」。○八月、玉山「百人一首図絵」。	淇園 (74) =皆川~ 金埒(57) 楚満人 (59) 内子 (63) 栗山 (74) 不白 (92)
1808 文化 5 戊辰	文麟	○三月、政美「諺画苑」。○十月、中和「永平高祖行状記」。○北齋「三七全伝南柯夢」(本書、 馬琴と葛藤する因由となる) ○馬琴作、北齋画「椿説弓張月」後編、続編。馬琴作「頼豪阿闍 梨恠鼠伝」。小枝繁作「絵本壁落穂」。種彦作「近世怪異霜夜星」。芍薬亭作「國字鶴物語」。振 鷺亭「安禱多羅賢物語」。酔月庵「由利雅楚居鷹」(以上、北齋画)	惟信 (56) 千蔭 (72) 五瓶 (62)
1809 文化 6 己巳	貞信ハカ'ワ○	○正月、豊廣画、京傳作「浮牡丹全伝」前編三巻四冊。牧墨僊「狂画苑」。○九月、北尾繁昌(重 政)「狂歌百人一首」。春泉齋清秀「二十四輩順拝図会」。○益亭三友作、歌川文治画「花鳥風 月仇討話」(文治、十五歳)	甫周 (59) 秋成 (76) 金鷄 (43) 月僊 (89) 中良 (54)

1810 文化 7 庚午	洪庵	○正月、金藏画「筆始日出松」(金藏十二歳の処女作、豊廣の子、師は豊國、芝甘泉堂)。○北齋画「市村座顔見世狂言」(招牌)。○田善画「佃島」(額絵、須賀川の諏訪神社)。○宇多川國麿「画図戯場三體誌」。武清「歌仙絵抄」。辰齋、北齋、北馬、重政、雪旦「狂歌千もとの華」。○春扇「身振いろはげみ」。○三月、國房「相生百人一首姫競」。	武禪(73) 國政(38) 裏住(77) 徳三(60) 参和(67?) 蘭山(82)
1811 文化 8 辛未	雨の屋 象山ヨウザン	○國芳、十五歳にして豊國へ入門。○廣重、十五歳にして、豊廣へ入門。○重信画、種彦作「京一番娘羽子板」(重信の処女作)。○正月、春扇「下界頭会」。春亭「花江都歌舞妓年代記」。國貞「客者評判記」(國貞、二十六歳)。○五月、中和「紀伊國名所図会」初編。春好齋「三勝櫛赤根色指」(大坂)。○十月、北馬「十五番武者合竹馬のたづな」。俊満、辰齋、北馬、北溪、北壽「自讃狂歌集」。○二月、探古室墨海画「阿波名所図会」。○清長、豊國、春亭「江戸紫鼻眞鉢巻」。○玉堂/山水(煙霞帖)一自題。竹田/煙霞帖一跋。○吳春/白梅図屏風一下限(没)。○天文方の蕃書和解御用掛を設ける。	嵩谷? 吳春(60) 穎川(59) 春海(66) 木網(88)
1812 文化 9 壬申	泉晁○	○正月、北齋「略画早指南」。暁鐘成画「大門口鎧襲」。中和「紀伊國名所図会」二集。北馬「若緑岩代松」。○六月、雪旦「古画要覧」。○九月、北齋「画道独稽古」。豊國「東名残門出錦袖」。	玉山(76) =カガ 春好(70) 北山(61) 通笑(74)
1813 文化 10 癸酉	雪堤	○國直画、三馬作「昔語丹前風呂」(國直、十八歳)。○正月、北齋「傳心畫鏡」。政美「絵本孝経」。一九画作「絵本江戸名所」。秀麿「役者用文章」。堀田連山「絵本婚礼道しるべ」。石田玉山「定家撰錦葉集」(歌書)。○五月、辰齋、一九、柳齋、辰潮、京傳、三馬、北嵩、北馬、北壽、俊満、辰光、辰一、辰暁、秋「狂歌関東百題集」。○六月、政美「魚貝略画式」。○十月、政美「草花略画式」。○竹田「山中人饒舌」。	南岳(47) 十江(37) 文鳴* 喜三二(79) 南岳(47)
1814 文化 11 甲戌	永惠 関齋	○正月、北齋「北齋漫画」初編(企画は文化九年-序文)。政美「心機一掃」。○四月、中和「近江名所図会」。○九月、合川亭■和「漫画百女」。美丸「巢鴨名産菊の葉」。國丸「高祖大士眞実録」。○重信画、馬琴作「南總里見八犬傳」第一輯。○國芳画、竹塚東子作「御無事忠臣蔵」(國芳、十八歳。実際は前年、文化十癸酉弥生稿成-序文)	豊春(80) 春潮(?) 七五三助(61) 三陀羅(84) 巢兆(54)
1815 文化 12 乙亥	一信 草雲	○十一月、清峰、五代目清満と改める。○正月、北齋「絵本浄瑠璃絶句」。牧墨僊「墨僊叢画」。○四月、北齋「北齋漫画」二、三編、「踊独稽古」。○八月、狂画堂蘆洲「芝翫節用百戯通」(大坂)。○九月、豊國「四天王大坂入」。○十一月、谷本春泉齋「西山鑑知國師図会全傳」。○此年、豊廣画、馬琴作「朝夷巡島記」。	清長(64) 目吉(?) 友汀(60)
1816 文化 13 丙子		○九月七日、政演歿す。○此年、北齋、其の号、戴斗を、門人新吉原の引手茶屋の主人亀屋喜三郎に譲るといふ説あり。○正月、北齋「三體画譜」。魚屋北溪、磯野文齋「狂歌御國ぶり」。○四月、「北齋漫画」五編。○英泉画作「桜曇春朧夜」。	政演(56) 春水(71) ㄥ 成美(68) 芙蓉(68) 東子(?)
1817 文化 14 丁丑	玄魚 芳宗	○十月五日、北齋、名古屋滞在中、百二十疊敷の紙に達磨半身の大図を画く。○正月、「北齋漫画」四より八編まで五冊出版。豊國「役者似顔早稽古」。英泉「俳諧百人一句集」。○四月、北齋「画本早引」。	大浪(56) 玄白(85)
1818 文政 1 戊寅 4・22 改元	枕山	○十月二十一日、江漢、歿す。○北齋、伊勢より紀州に入り、それより京阪地方を遊歴せり。○正月、北齋「秀画一覽」。豊國、國貞、辰齋、戴一、國丸、國安、春亭、武清、玉山「以代美満壽」。北溪「東海道岐岨街道狂歌合」。○二月、北齋、立?好齋「萍水奇画」。○三月、國直「歌舞妓雑談」。○九月、戴斗「和語陰隲文絵抄」。○江漢/西洋人樽造図一下限(没)。	江漢(72) 素絢(60) 文一(30) 鬼武(59) 忠敬(74) 川柳2(60) 不昧(68)
1819 文政 2 己卯		○秋、淺草、奥山にて籠細工(大坂の一田正七郎) ○正月、「北齋漫画」九編より十一編。○四月、「北齋画式」。「画本早引」二編。○四月、北溪「狂歌五十人一首」。○十月、合川■和「通神画譜」。	重政(82) 義董(40)

1820 文政 3 庚辰	半山	○正月、廣重画、東里山人作「音曲情糸道」(廣重の処女作、二十四歳)。春亭「戯場百人一首」。五月、「北齋麿画」。○八月、貞房「見世ものがたり」。○十月、北溪「新居狂歌合」。	春亭(51) 俊満(64) 玉堂(76) 市人(66) 米山人(77)
1821 文政 4 辛巳		○春扇、二代春好と称す。○六月、江戸に駱駝二頭来る。閏八月九日より両国廣小路にて見世物となせり。「駱駝考」といへる著書出版の外、錦絵に多く画かる。○正月、北溪「狂歌読人名寄細見」。岳亭春信「狂歌読本詠奇譚」。○八月、春暁齋「男山放生会図録」。○北溪、英山、沖一峨、岳亭、千春「新曲撰狂歌集」。	洞白(50) 秋人(64) 狙仙(73) 保己一(76) 谷峨(72) 利明(78)
1822 文政 5 壬午	芳瀧	○投扇の戯、流行し、辻々に見世を構へ賭をなせしかば八月にいたりて禁制さる。○春、唐人踊り(カンカン踊り)の見世物。○此年、岳亭定岡画「狂歌三十六歌仙」「狂歌水滸伝」「狂歌評判記」。○田善/浅間山真景図屏風一下限(没)。	田善(75) 玄対(74) 三馬(47) 焉馬(80) 鷹山(72)
1823 文政 6 癸未	國貞 2 国政 2 椿岳 蓮杖 爲恭 團十郎 8	○正月、北齋「一筆画譜」「今様櫛煙管雛形」。重山「絵本ふぢはかま」。春暁齋「絵本堪忍記」。辰齋画「狂歌驛路鈴」。○三月、国貞「江戸紫訥子頭巾」。○八月、北馬「狂歌隅田川名所図会」。八島一老「一老画譜」。○九月、八島岳亭「鹿島名所図絵」。	素外(90) 蜀山人(75) 春暁齋(57) 千春(83) 訥言(64) 龍麿(60)
1824 文政 7 甲申	永機	○正月、暁鐘成「澱川兩岸勝景図会」。北齋「教訓仮名式目」。○五月、岳亭「狂歌奇人傳」。○十月、北馬「狂歌武蔵野百首」。○十一月、北溪「扶桑名所狂歌集」。 ■ = 草冠 + 惠	■齋(64) 琢眼(78) 如元(60) 歌政(50) 北寿(60s) 薰(56)
1825 文政 8 乙酉		○正月、沼田月齋「絵本今川状」。○二月、北馬「狂歌波の花」。○冬、八島岳亭「狂歌吉原形四季細見」。岡田玉山「伊勢物語図会」(文政六年稿成)。○東南西北雲「復讐奇談五人振袖」(読本)。一楊齋正信「鳥邊山調べのいとみち」。柳園種春「現過思迺柵」。○國重(二代豊國)「女風俗吾妻鑑」(合巻)。○華山/四州真景図巻一落款。	豊國(57) 錦城(61) 徳瓶(68)
1826 文政 9 丙戌	廣重 2 ○ リッソウ	○紅摺の疱瘡絵。○正月、国貞「三芝居役者細見」。岳亭「略画職人盡」。北溪「額面狂歌集」。國直「狂歌百将図傳」。○四月、北溪「狂歌鼎足集」。○六月、暁鐘成「世話千字文絵抄」。北溪、国貞、北馬、國直、辰齋、北齋「狂歌の集」。紹眞(政美の子、赤子と称せり)画「松屋叢考」。○二代豊國「尾上松緑百物語」(合巻)。	千春(94) 鵬齋(75) 波響(63) 章信(62)
1827 文政 10 丁亥		○正月、廣重「洒落口の種本」(表紙画のみ廣重、三十一歳)、「寶船桂帆柱」(合巻)。英齋泉壽「武者絵早学」。岳亭「紫草」。雪旦「江戸名所花暦」。重信「狂歌人物誌」。春暁齋「絵本堪忍記」。○八月、戴斗「萬職図考」。○十一月、戴斗「校本庭訓往来」。	春好(?) 茶山(80) 田騏(44) 一茶(65) 歌國(52) 茶山(80) 南北(60s) トウ イッ 雅嘉(73) 玄沢(71)
1828 文政 11 戊子	芳藤 ○ 由一 芳崖	○正月、英泉「画本錦之囊」「絵本勇見袋」。国貞、貞景、北溪「狂歌四季訓蒙図彙」。國安「四十八手最手鏡」。○三月、國丸、國直「活金剛傳」。國安「相撲金剛傳」(此ころ、相撲道、盛ん)。○四月、北溪「三才花百首」。○五月、眞虎「麿画國風」。○九月、北齋「絵本庭訓往来」初編。○岳亭定岡画作「俊傑神稻水滸伝」初編。○抱一/夏秋草図屏風一下限(没)。○シーボルト事件。	抱一(68) 介石(82) 栄信(54) 元成(75)

1829 文政 12 己丑		○正月、北齋「忠義水滸伝画本」。国貞「三都俳優水滸伝」。○四月、眞虎、歌芳、英泉「神事行燈」三編。北溪「三才月百首」。○五月、北溪「本朝狂歌英雄集」「狂歌桂花集」。○国貞画、馬琴作「近世説美少年録」第一輯。○豊廣、十二月二十一日未明(?)歿す - 馬琴日記。	榮之(74) 眞顔(77) 豊廣(65) 應瑞(64) 南北4(75) 國長(40s) 國丸(25) 定信(72) 治助2(62) 景保(43) 眞澄(76)
1830 天保 1 庚寅 12/10 改元	國輝2○ 芳盛○	○正月、重信「狂歌百千鳥」。國貞「戯場一觀頭微鏡」。北溪「狂歌東關驛路鈴」。豊春「拳獨稽古」。○二月、北溪「三才雪百首」。○四月、國直「神事行燈」四編。○六月、岳鼎「猿蟹ものがたり」。○十一月、青洋、虎岳「狂歌百鬼夜興」(京都)。○八月、廣重、始めて東海道を往還する。	雅望(78) =眞顔 嵩月(75) 蘆朝(80s)

○寛永年間、浮世絵師・山本理兵衛

○尚信、慶安3年4月7日、44歳没(一説)

○承應年間、花田内匠。

○萬治年間 お伽草紙、仮名草紙、浄瑠璃本。「ぶんしやうのさうし」「よこぶえ たきぐち のさうし」「志田ものがたり」「富士の人穴さうし」「あつもり」「平の維茂もみぢ狩」「教訓書、随筆「女訓抄」「見ぬ世の友」。

○延寶年間 ○師宣、師重の一枚絵、流行する。丹録など手彩色。○浮世絵師、井上勘兵衛。

立圃。名人忌辰録に九月三十日行年七十一歳没すとある。寛文九年説が有力。

○天和年間 杉村治信「古今男」

○貞享年間 絵師、河合翰雪。

○元禄年間 ○吉原の遊女、高橋(江戸町一丁目、巴屋源右衛門抱え)白無垢にて揚げ屋入り。八朔に白無垢を着る習慣になるという。

○寶永年間 ○赤猫齋全暇、鳥羽絵を描く(京都)○政信画「きほひさくら」(馬琴「燕石雑誌」)

○正徳年間 ○古山師重没す(俗称太郎兵衛、門人に師政)○植木師伊兵衛、花木草花市を染井にて開催○道具持ち仲右衛門(築地小笠原家)、管簾を製す。

○享保年間 ○この頃、和泉屋権四郎、紅彩色の絵を売る。紅絵の初め。

○享保年間 ○浄瑠璃語り、宮古路豊後掾、享保の末、京都より江戸に下る。この時の豊後掾の風俗が江戸にて流行る。○大盡舞、流行る。

○元文年間 ○市松(石畳の染)模様、流行る。歌舞妓役者、佐野川市松の好み。○舞子の花かんざし、はやり出す。

○延享元年 ○黒本、画工は奥村利房、鳥居清倍、西村重信。多くは署名なし。稿挿絵鱗形屋版「十団子の始まり」「牛御前ものがたり」「敵討亀山通」「敵討巖流島」。奥村版「敵討御法の庭」。山本(九左衛門)版「福人よめ争い」「相州矢立杉」「執着一念物語」「新義経記」「南朝太平記」。岩戸屋「丹波てて打栗」。

○延享年間 ○浮繪、流行する。○谷中、笠森稻荷参詣が始まる。○志道軒の講釈、流行る。

○寛延年間 ○この頃より、開帳場に神仏によらず、幟を立てる事始まる。

○江戸の方言にて、山猫といへる傀儡師、一月に七八度づつ同じ所を廻りしが、この時代より絶えたりといふ。○宗十郎頭巾はやり出す。

○寶暦一年 西川祐信 祐信は京都の画家にして西川流の祖なり。もと狩野・土佐等の画を学びたるも、江戸の菱川・鳥居等の画を見て其の影響を受け純浮世絵画家となれるが如し。俗称は右京・祐助等といひ、文華堂・自得齋等の号あり。寶暦四年三十一歳にして初めて浮世草紙「新堪忍記」に書き、超えて享保八年四十六歳のとき「百人女郎品定」に書き、大いに名声を高め、又超えて享保十五年よりは死に至るの前年七十三歳まで毎年四、五

部宛ての絵本を画かざる無く、其刊年不明のもの及び署名せざるもの種々の書籍に亘りて存在する者百十七部にして、其の画の巧拙は暫く措き、其の努力に至りては実に偉なりといふべし。後年江戸に葛飾法歳あり、一は婉柔を極め、一は勁拔を尽くせり。唯だ其の孜々として研鑽倦むなきの点に至りては東と西と古と今と一對の好画伯たりといふべし。

○寶曆二年 ○十一月十三日、宮川長春歿す。長春は尾張國宮川村の産にして後江戸に出て本所菊川町に住せり。長春おもふところありしか、終世版画を画かず、余（漆山天童）は懷月堂の版画さへ見たるに、長春は絶えて見たる事なし。余の浅見の然らしむるところなるか、記して以て世の識者に問はんとす。門人には長龜あり。春水あり。斯界の偉人勝川春章は実に、春水の門人なり。

○寶曆三年 ○羽川珍重、没す。蓋し、翌寶曆四年説眞なるが如し。○六月二十一日、俳人立羽不角没す。年九十二歳。○十一月二十四日、俳人自在庵祇徳没す。

○寶曆十三年 ○十二月二日、鳥居清倍没す。行年五十八歳。(清倍は清信の弟にして通称庄二郎といへ。漆絵、丹絵、紅絵等の作あり。二代の清倍もある如く、或いはこの寶曆十三年に没したる清倍こそ二代にあらずやと想はるう疑あり。世の識者の教えと後の考えとを待つ)。○六月十九日、大岡春卜没す。行年八十四歳。蓋し、浮世絵師にはあらず。

○寶曆年間 ○武江年表に記していはく。寶曆中、西村重長が「絵本江戸みやげ」(寶曆三年出版) 囃中、両国涼みの囃に水茶屋葭簀の屋根なし。見世毎に行灯を於いて御涼所と記せり。吉原五十軒茶屋に編笠、釣るしてあり。歩行の女子帽子を冠ると。又いはく、婦女の衣類丁子茶の色を好み、花簪はやる。朱塗の櫛(旭の櫛といふ)象牙の笄も行はれたりと。

○明和元年 ○此年、奥村政信没す。行年七十九歳(或いはいふ明和五年二月十一日同じく七十九歳にて没せりと。) 政信は原来書肆にして通油町奥村屋源六即ちこれなり。菱川師宣、鳥居清信等の絵を私淑して学びたるものの如く、又文字もありて著書あり。挿絵も自ら成し、其の著書は先に散見せるが如し。通称源六の外、源八ともいひ、芳月堂、丹鳥齋、文角、梅翁、親妙等の号あり。其の才早熟にして三十歳前より盛んに製作し、晩年に至りて却って其の作稀なり。)

○明和三年 ○此年、亀戸龍眼寺、庭中池邊に数株の萩を栽う。是より毎年、盛の頃、貴賤遊覧の爲め群衆す。浮世絵の郊外散策の囃に萩寺の景などあるは、これより生まれり。

○此年、霊岸島埋立地成る。俗に蒟蒻島といふ。所謂、岡場所の一にして、洒落本を蒟蒻本といへるは、この蒟蒻島を描きはじめてるよりの期限なりともいふ説あり。

○明和六年 ○此年「明和伎鑑」出版。画は俳優の鬘のみなり。此書、俳優の事を記するに武鑑を擬し廉（かど）を以て絶版せられ、作者は遠島の刑に処せられたりといふ。○此年四月八日より、湯島境内にて和泉石津大社笑姿（えみす）開帳。この時、巫女二人、名をおなみ、おはつといへるみめよき女を扱みて舞はす。鈴木春信これを錦絵に画けり。

○明和七年 ○鈴木春信歿す。行年五十三齋。或いはいふ四十六歳。或いはいふ四十七歳と。（春信は通称治兵衛、号は長栄軒、両国米沢町に住せり。西村重長に学べりといふも重長一人にはあらざるべく鳥居派や宮川派や、その他當時の画工の春信の先輩の鳥山石燕・石川豊信等も研鑽の料とせられたるなるべし。而して所謂、錦絵なるものは実は春信に抛り手創始せられたるものの如し。門人には磯田湖龍齋の傑出せるあり。）

○明和年間 ○谷中笠森稻荷境内の茶屋鍵屋おせん、浅草奥山銀杏木の下楊枝見世柳屋のおふぢ、此の二人當時美人の聞こえありて、鈴木春信専ら錦絵に画く。○此頃浮世絵師、小松屋百亀（麹町飯田町の薬種屋にて、西川祐信を私淑し、専ら春画を画けり。通称三右衛門。寛政四根ん、八十餘歳にて歿せりといふ）、柳文朝等盛んに行なはる。

○安永三年 ○鳥山石燕「彩画鳥山彦」。フキボカシなりといふが、疑はし。明和四年版の大坂の画工北尾雪坑齋「彩色画選」はフキボカシの彩色なり。それ等とは大いに趣きを異にし、普通の彩色摺なり。

○天明四年 ○此年春、古阿三蝶（世人古来誤りて古阿を古河と記す）・・・（青本）。

○天明五年 ○三月十八日、福王雪岑、歿す。行年八十五歳。（雪岑は御能役者、福王茂右衛門なり。白鳳軒と号し、一蝶風の画を学び、享保の頃より能の図を画くことを専らとせり。）○四月三日、鳥居清満、歿す。行年五十二歳。（清満は鳥居家の三代を継ぎ、実に清倍の次男なり。今の所謂、三色版を発明し、我版画界に特に功績ありし人なり。）○五月二十五日、石川豊信、没す。行年七十五歳。（豊信は通称、七兵衛、馬喰町の旅籠屋糠屋の主人にして絵画を好み、西村重長に就いて浮世絵を学び、明篠堂秀葩の別号あり。多く紅絵を画けり。）

○天明六年 ○十二月四日、月岡雪鼎、歿す。行年七十七歳（雪鼎は近江の人。京都及び大坂に住せり。名は昌信、通称丹下、露仁齋・信天翁等の号あり。初め高田敬輔に学び、後一家を成し、即ち月岡流の一派を立てたり。美人を画くに最も柔媚の態を能くし、春画に長ぜり。）

○天明七年 ○七月一日、勝川春常、歿す。（春章の門人にして、俗称安田岩藏といへりといふ。青本を多く画けり。）○九月七日、俳諧師、雪中庵蓼太、歿す。行年七十歳。○此年、屠龍翁高嵩谷、浅草寺観音堂へ源三位頼政、猪早太と鶴退治の図を額とし掛く。（武江年表に、いはく横二間縦九尺もあるべし、此額に付て色々の評判あり。甲冑其他、故実を失ひたる由いふ人あれど、古画を潤色せる所にて、人物の活動普通の画匠の及ぶ所にあらずと。）○五月、哥麿「不仁野夫鑑」（洒落本）。此の書、東湖山人の作にして、安永四年に成れるものなれば世人、為に誤りて哥麿も安永四年に画けるものと為せり。実は永く写本にてありしを、本年出版に際して挿画を哥麿に画かせしものなれば、安永四年の画とは、いひ難きものなり。哥麿の処女作は安永八年に豊章と称して口画を画ける洒落本「すすはらみ」「おきみやげ」等を以て嚆矢とすべきが如し。）

○天明八年 ○六月十二日、二世英一蜂（始め一艇と号す。）歿す。○八月三日、鳥山石燕歿す。（石燕は本姓佐野、名は豊房、零陵洞の号あり。初め狩野玉燕に学び、純浮世絵師にあらざる如きも、其の門人には浮世絵師とし大家歌麿を始めとして、長喜、春町の如き傑物を出だせり。其の歿年に就いては區々の説あるも、天明四年春出版の「通俗画図勢勇談」及び「百鬼徒然袋」に七十三翁と署せり。此二書、正月の出版なれば、其の前年に画きたるものなるを知るべく、七十三翁と記せるは其の前年、天明三年の意なる、将た其の翌年の出版を見越して記せるものなるか明らかならざるも此年天明八年に七十七歳似て歿せることは信を措くに足るものの如し。）○「文武二道萬石通」（版元、蔦屋重三郎）絶版処分。これ天明七年六月、松平定信（楽翁）が幕府の老中となりて、文武二道の奨励をなせしを風刺愚弄せしものなりしかば、忽ち絶版されしとなり。

○天明年間 ○如何なる方面にも文化的黄金時代なるが、殊に浮世絵界には前後比類なき大家の出でたる時にして、即ち鳥山石燕、石川豊信、勝川春章、一筆齋文調、歌川豊春、

石田玉山、北尾重政、恋川春町、司馬江漢、鳥居清長、喜多川哥麿、窪俊満、葛飾北齋、北尾政演、北尾政美、湖龍齋、長喜、勝川春潮、勝川春好、竹原春朝齋等あり。○戯作者に朋誠堂喜三二、市場通笑、伊庭可笑、芝全交、志水燕十、恋川春町、萬象亭、岸田杜由、唐来三和、恋川好町等あり。○狂歌師には四方赤良、鹿津部真顔、朱楽菅江、元の木阿弥、ききら錦鶏、宿屋飯盛、大屋裏住等のあるあり。○俳諧師には蓼太、蕪村、白雄、太祇、完来、暁臺、闌更等のあるあり。○書家には三井親和、東江源麟、韓天寿、関其寧等のあるあり。○和歌者流には千陰、春海、蘆庵、諸鳥等あるあり。実に文化燦然たる黄金時代なりといふべし。

○寛政元年 ○七月七日、戀川春町歿す。行年四十六歳。(春町は画を鳥山石燕に学び、俗称倉橋寿平といひ、原来、狂歌師にして狂鳴を酒上不埒と号し、小石川春日町に住せるを以て戀川春町とも称し、戯作に工みにて、安永四年正月出版の「金銀先生栄花夢」は実に自画作にして、其の當時の富川吟雪、鳥居清経等の画の生硬なる人物に比して、よく柔媚なる容姿を画けるより時好に適し、これより黒本時代と青本時代の分水嶺を劃出したるは春町の功なりとす。葉+町も亦偉なりといふべし。春町の死因に就いては、十一代家斉將軍の内行を風刺したる青本仕立の春画「遺精先生夢枕」を著し、為に禍を為して改易の悲運に至らんとせるを慨し、屠腹して死せりといふの説あり。もとより「鸚鵡返文武二道」なんども自然禍の因を成せるが如し。)

○寛政二年 ○此年、幕府より風俗を乱すもの及び政策上に不利なる絵本読本絵草紙等の取締令を發せり。其の地本問屋行事共え申渡書に「書物の儀毎々より厳敷申し渡し候処、いつとなく猥に相成り候何に寄らず行事改め候て絵本絵草紙類迄も風俗の為に不相成り猥ケ間敷等勿論無用に候。一枚絵類は絵而已に候はば大概は不苦。尤も言葉書等有之候はば早々是を改め如何成る品は板行為致申間敷右に付き行事改めを不用者も候はば早々訴可出候又改方不行届、或いは改めに洩れ候儀候はば行事共越度可為候。右の通り相心得可申候。尤も享保年中申し渡し置き候趣も猶又書き付けにて可相渡候間、此度申し渡し候儀等相含め改め可申し候、寛政二射抜年十月二十七日」とあり。

○寛政四年 ○十二月八日、勝川春章歿す。行年六十七歳。(春章は通称勇助、宮川春水の門人にして、初め勝宮川を称せり。旭朗井、酉爾、六六庵、李林等の号あり。縦画生と署せり。縦画生とは擅画などいへる意に同じくして、画方に依らぬほしいまなる画といふ意なり。役者の似顔を画くに工みにして歌川豊國なんどのほるかに上にあり。北尾重政を友とし善く、共に一部の絵本に画けるあり。) ○此年、橘保國歿す。行年七十六歳。(守國の男なり。) ○小松屋百亀歿す。行年八十餘歳。(江戸飯田町の薬種屋の主人にして、俗称三右衛門、剃髪して小松軒百亀と号せり。性絵画を好み、殊に京都の西川祐信の絵を私淑し、春画に工みなり。)

○寛政五年 ○此年、耳鳥齋歿せりといふ。(耳鳥齋は大坂の人にして俗称、松屋平三郎といひ劇道に通じ、又浄瑠璃を語るに堪能にして、家産を蕩盡してより骨董商となれり。)

絵はいはゆる鳥羽絵にして、長谷川光信の流を汲めるが如し。)

○寛政六年 ○此年、日光廟造営あり、葛飾北齋、狩野融川に隨うて絵事に従事せり。幾程も無くして江戸に帰れり。○此年出羽國最上より十二歳（或いはいふ十一歳）にて二十二貫目の体重ある大童山文五郎といへる者出で錦絵に画かる。角力となりしが、年長じて弱くなれりといふ。○此年、葛飾北齋、叢春朗と称す。

○寛政八年 ○四月十二日、一筆齋文調歿す。行年七十歳。（文調は初め石川幸元に絵を学び、後石川豊信、鈴木春信等を私淑し、勝川春章と共に俳優の似顔を描くに妙を得、春章合作の「絵本舞台扇」を描くに至れり。絵本は多く画かざりしも、細絵の役者似顔絵は春章に匹敵するものの如し。）○四月十二日、狂歌師、桑楊庵光歿す。○六月十五日、書家東江源鱗歿す。行年六十五歳。○慶遊齋歌政「常棣」（俳句集）（歌政は名古屋の人にして牧墨僊。初め哥麿の絵を学びし時の号なり。墨僊は名は信盈、通称新次郎、後登と改め、又助右衛門といへり。別に北僊、百齋、月光亭、北亭、斗岡楼等の号あり。尾張藩士にして禄五十石を食めり。文雅の士にして初め哥麿を私淑せし時は歌政といひ、後葛飾北齋に学ぶに及びて、歌政の号を其の門人沼田月齋に譲れり。北齋五十八にして名古屋に入りし時、墨僊が家に客たりといふ。墨僊、文政七年、歳五十にして歿せりといへば、今歳は実に二十二歳の青年なり。著書には「一宵話」「眞草画苑」「画賛図集」等あり。）

○寛政九年 ○六月三日、狂歌師蔦の唐丸歿す。行年四十八歳。（唐丸は絵本、細見或いは軟派書類の書肆蔦屋重三郎なり。蔦屋の為に當時の戯作者、浮世絵師、殊に山東京傳、喜多川哥麿等の庇護せられ其の驥足を延ばし得たるは世の知るところなり。唐丸歿後と雖も、一かどの書肆なりしが、唐丸生前よりは振るはざりしが如し。山谷の正法寺に葬る。）○十月二十日、大坂の浮世絵師、蔦關月歿す。行年五十一歳。（關月は太坂の人にして初め月岡丹下に学びたるも後浮世絵を画かずして終われり。通称原二、名は德基、字は子

温、中江藍江は実に關月の門より出でしといふ。)

○寛政十二年 ○此年、大坂の浮世絵師竹原春朝齋歿す。(春朝齋は春泉齋の父にして名を信繁といひ、本姓松本氏、通称竹原門次といふ。大岡春卜の門人なりといふ説あるも、月岡雪鼎に私淑せるものの如く、當時出版の名所図会に多く画き、亦、近路行者の読本の挿画は多く春朝齋の画けるところなり。)

○寛政年間 ○浅草隨神門前の茶店、難波屋のおきた、両国薬研堀の茶店、高島屋のおひさ、芝神明前の茶店、菊本のおはん、此の三人美人の名高く、能く清長、哥麿等の錦絵に画かれたり。○酒楼に於いての書画会、流行し出せり。

○享和元年 ○六月、梨木祐爲歿す。行年六十三歳。(祐爲は京都下鴨の祠官にして和歌に名あり。絵は西川祐信に学び、寛政九年出版の五升庵瓦全の編「職人盡發句合」の挿画は実に祐爲の画くところなり。)

○文化元年 ○八月二十三日、高嵩谷、歿す。行年七十五歳。(嵩谷は英流の画工にして、佐脇嵩之の高弟なり。屠龍齋、樂只齋などの号あり。浅草観音堂の源三位頼政主従の鶴退治の図の額は其の筆なり。) ○十一月二十二日、英派の画工、佐脇嵩雪、歿す。○五月二十七日、大坂町奉行より「絵本太閤記」の絶版を命ぜられ、六月四日、製本ならびに板木共取り上げらる。画工は法橋、岡田玉山、版元は勝尾六兵衛外五人なり。(此書、維新後大坂にて再版販売せり。) 同じき五月、江戸の浮世絵師、勝川春英、同春亭、歌川豊國、喜多川哥麿、同月麿など作画により手鎖五十日の刑に処せらる。○九月に至りて「絵本拾遺信長記」絶版を命ぜらる。○四月十三日、葛飾北齋、音羽の護国寺に於いて百二十疊敷の大厚紙に達磨を画く。後、文化十四年に至り、名古屋に於いて又画けり。一對の大画といふべし。

○文化三年 ○九月二十日、喜多川哥麿歿す。行年五十四歳(哥麿は鳥山石燕の門人にして、初め豊章と称せり。即ち師の豊房の名の豊の一字を譲られしものの如し。哥麿は浮世画界第一流の傑物にて時代も亦天明の黄金時代に最も其の妙腕を振へり。殊に美人を画くに艶麗なること哥麿の右に出づる者無きは世の定評のあるところなり。) ○大坂新町の人、明石屋甚藏なる者、江戸に下り、日本堤にて盜賊に遇ひ、浅草観音を念じて其の難を、

まぬかれし事あり。其の後、この事実を浮世絵に書き、錦絵に出版せるものあり。

○文化四年 ○此ころ、斎藤写楽歿す（写楽は東洲齋と号し、俗称十郎兵衛と呼べり。阿波藩の能役者にして、絵を能くし、殊に役者の似顔を画くに極端にその特色を発揮し、却って時好には適せざりしもの如し。）

○文化六年 ○正月、豊廣の挿絵にて、山東京傳作の「浮牡丹全伝」前編三巻四冊、出版せり。版元は四谷伝馬町の住吉屋政五郎なり。此書の挿絵精密、彫刻も亦精巧（彫刻師は小泉新八）なりしなれば、従って出版費も多大なるに、如何したりけん。売れ行き僅かに九十部にして、為に版元微禄し、政五郎の妻女は、それを気病みして死去せりといふ。此書の売れざりし所以は、世人、浸くにして馬琴の文章にあこがれ、さすが京傳の趣向のよきも、豊廣の挿絵も顧みざるに至りし為か。

○文化七年 ○十一月晦日、国政歿す。行年三十八歳。（奥州会津の産にして名を甚助といへり。豊國の門人にして特に役者の似顔を画くに堪能なりし。）○田善「佃島」（須賀川諏訪神社）（亞歐堂、永田善吉。司馬江漢の門人にして西洋画を学び、銅版画多くあり。）

○文化八年 ○此年、雨の屋鄰春、生まれる。（字は吉人、花所と号す。明治十五年九月十三日、七十二歳にて歿せり。）○此年、柳川重信の画としての処女作「京一番娘羽子板」成る。（出版は翌文化九年なり）按ずるに「無名翁隨筆」「増補浮世絵類考」などに、柳亭種彦初めての作、重信初めての画、京一番娘羽子板、西村與八板、文化四、五年の比なりとあるが、本書を実見するに序文に文化辛未（文化八年）秋稿成、壬申（文化九年）孟春發販、柳亭種彦誌と署せり。而も種彦の処女作は此年春、出版の青本、蘭亭北嵩の挿画にて「鱸庖丁青砥の切味」。読本には北齋の挿画にて「勢川橋龍女本地」なり。

○文化九年 ○此年、石田玉山歿す。行年七十六歳。（玉山は大坂の人。諱は友尚、字は子徳。岡田玉山の師なり。）

○文化十一年 ○正月十二日、歌川豊春歿す。行年七十八歳。（豊春は歌川流の画祖にして、俗称但馬屋庄次郎、生國は豊後の臼杵の人、始め京都に出て鶴沢探鯨の門に入り狩野派の絵を学び、後江戸に来たりて鳥山石燕、石川豊信などに私淑し、遂に一家を成せるが如し。号を一龍齋又潜龍齋といひ、芝宇田川町に住みしより、その町名に因んで歌川と称せるなりといふ。）○此頃、勝川春潮歿す。（春潮は勝川春章の門人にして通称を吉左衛門、雄文堂、忠林舎、吉左堂、東紫園など号あり。春潮は春章の高弟なれども、勝川派といはんよりは、大に鳥居清長の筆致に似たり。）○正月、北齋の「北齋漫画」初編出版。（「葛飾北齋傳」には文化十四年より追年出版して云々とあれども、実物を見るに本年、文化十一年甲戌孟春と奥附に署し、併も序文は文化壬申とあれば、文化九年より企画せるものたるを知る。）

○文化十二年 ○六月五日（或いはいふ五月二十一日）鳥居清長歿す。行年六十四歳。（清長は相州浦賀の産にして本姓關氏なり。日本橋本材木町に書肆を営みて俗称白子屋市兵衛といへり。鳥居清満の門人中は關清長と署し、師清満歿して嗣子幼なるより鳥居家特有の芝居の招牌を画く者無かりしより、清長嗣子清峰の成長するに至るの間鳥居を称して、芝居の招牌を画けり。清長内憂の似顔および芝居の招牌を画けりといふも、元来鳥居の所謂瓢箪足の様に抛りて画けるよりは、本性の清長特得の技倆を発揮せるより、當時の浮世絵師は歎然として清長を私淑するに至り、勝川春潮、歌麿、榮之、北齋、湖龍齋、俊満、豊春など、いづれも清長の筆致を真似るに至れり。かかる技倆を有したる清長にして晩年製作の少なきは、その何の故たりしか、怪訝に堪えざるところなり。）○十二月五日、泉目吉歿す。（目吉は守一と称せり。本郷に住せりといふも、伝記詳ならず）○十一月、鳥居清峰（俗名、庄之助、清満の子）五代目清満と改む。（これ清長歿し、おのれ自らも成長して鳥居の後を継ぐに然るべき年配に達したればなり。）

○文化十三年 ○九月七日、北尾政演歿す。行年五十六歳。（政演は即ち軟派の著述家として有名なる山東京傳の浮世絵師としての号なり。本姓岩瀬氏、京屋傳藏と称して、京橋に袋物屋を営みて生業とせり。絵を北尾重政に学び、葎齋政演と号せり。其の技倆を窺ふに足る好材料は天明四年出版の「吉原傾城新美人合自筆鏡」にして実に政演二十四歳の作なり。政演、多能にして後、一流の著作者となりてよりは又往日の如く浮世絵を画かづな

りしは惜しむべし。)

○文化十四年 ○宮城玄魚、生まれる。(梅素、玉杓子などの号あり、浮世絵を画き、草双紙の見返しに多く画けり。明治十三年二月七日歿す。行年六十四歳。)

○文政元年 ○十月二十一日、司馬江漢、歿す。行年七十二歳。(江漢、名は峻、春波樓と号す。初め鈴木春信の門人となりて春重と称し浮世絵を画き、又二代春信とも称せりといふ。後、長崎に至りて西洋画を学び盛んに油絵を画けり。又銅版画を製作す。亞歐堂田善は実に其の門人なりといふ。著書には西洋画談、西遊旅譚、長崎見聞志、春波樓筆記、和蘭通舶、泰西諸国銭考などあり。)

○文政二年 ○北尾重政、歿す。行年八十二歳。或いはいふ文政三年八十三歳にて歿せりと。(重政は幼名を太郎吉といひ、通称を佐助、久五郎などと呼び、紅翠齋、花藍、酔放散人、恒酔夫などの号あり。江戸横山町の書肆須原屋三郎兵衛の子にして、もと紀州の人なり。重政は、ひとり絵画のみならずして又、書を能くし、當時の江戸暦の版下は実に重政の一手に成れりといふ。) ○十月二十六日、勝川春英歿す。享年五十八歳。(春英は、春章の高弟にして俳優の似顔を能くし、又武者をも能くせり。本姓、磯田、通称久次郎、九徳齋と号せり。) ○此年秋、大坂の一田正七郎といへる者、箆にて人物鳥獸草花の類を作り、浅草奥山にて見せ物とす。此箆細工の見せ物は、その後、天保七年に至り両国回向院にて嵯峨の釈迦開帳の際、亀井町の箆細工の見せ物を出だせり。其の、いづれのなりしか浮世絵に画きたるあり。蓋し、これより度々ありし事なるべければ確かとは断じがたし。

○文政三年 ○八月三日、勝川春亭歿す。行年五十一歳。(春亭は春英の門人なり。通称山口長十郎、松高齋と号せり。武者絵、役者絵を善くせり。焉馬の歌舞妓年代記の挿画は春亭努力の作なり。○九月二十日、窪俊満歿す。行年六十四歳。(俊満は北尾重政の門人なり。又狂歌を宿屋飯盛に学びて狂名を南陀伽紫蘭と称せり。又文才あり青本を作り同じく南陀伽紫蘭と署せり。通称安兵衛、尚左堂、黄山堂などの号あり。本姓窪田を修して窪と称せり。尚左堂の号は左筆なりしを以て号せるなり。) ○正月より秋にわたりて両国橋詰に大きな細工物の見世物出づ。

○文政四年 ○清水爲齋、生る。(北齋の門人なり。明治十三年歿す。行年六十歳。) ○四月十三日、書画鑑定家として有名なる菅原洞歳、歿す。行年五十歳。○七月二十六日、狂歌師、腹殻秋人(書家として董堂敬義)歿す。行年六十四歳。

○文政五年 ○五月七日、亞歐堂田善歿す。享年七十五歳、或いはいふ七十三歳と。(田善は永田善吉の略称なり。亞歐堂と号す。岩代國須賀川の人にして、司馬江漢に就いて西洋画を学び、盛んに銅版画を製作せり。)

○文政五年 ○春より葺屋町河岸に於いて唐人踊の見世物を出す。カンカン踊りといふ。為に歌川国安の画にて「看々踊りきんらの唐金」といへる合巻五巻二冊出版さる。蘭麝臺薰の作なり。其の他、一枚物(錦絵)にも多く出でたり。

○文政六年 ○一壽齋国政生まれる。(後二代国貞となる。) ○淡島椿岳生る。(小林氏南平堂と号す。明治二十二年九月二十一日歿す。行年六十七。) ○二月八日、俳人谷素外歿す。行年七十五歳。(一陽井と号す。重政、豊國などの俳諧の師なり。) ○四月六日、蜀山人、歿す。行年七十五歳。○六月二日、談洲樓焉馬、歿す。行年七十餘歳。○七月十日、京都の浮世絵師、速見春暁齋、歿す。行年六十餘歳。(春暁齋、名は恒章、俗称彦五郎、実録體の読本を多く画作せり。○十一月十二日、高島千春、歿す。行年八十三歳。

○文政七年 ○三月二十一日、鋏形 齋(北尾政美)歿す。行年六十四歳。(政美は本姓鋏形氏、北尾重政の門人となりしより師の姓、北尾を称するを許さる。幼名三治郎、又三二といふ。号は政美又杉阜と称し、昨年、齋又紹眞と号せり。晩年の号は浮世絵を脱却して狩野或いは大和絵等を参酌せしよりの号なり。政美の作品中「略画式」「今様職人盡歌合」最も行はる。) ○九月十七日、勝山琢眼、歿す。行年七十八歳。

○文政八年 ○正月七日、初代豊國歿す。行年五十八歳。(初代豊國は倉橋五郎兵衛といへる木版彫刻師の子にして父は歌川豊春の知人なりしより、幼時より豊春の門に遊び、同門豊廣と共に浮世絵界に名声を博するに至りしなり。俳優似顔絵は其の得意とするところなれども、前半生の読本などの挿画も亦豊國独特の妙を有し、師の豊春よりは遥に門人も多く、歌川派を盛んならしめたるも豊國一人の力多かりしなり。一陽齋と号せり。○此年七月、前年歿せる北尾紹眞の絶筆にして且つ第一等の傑作「今様職人盡歌合」二冊出版、歌の判者は六樹園と眞顔なり。

○文政九年 ○七月十一日、荒井千春歿す。行年九十四歳。○前年、文政八年秋より冬にかけて疱瘡流行せしかば、溪齋英泉の画ける「疱瘡軽口ばなし後編子寶山」(軽口ばなしは享和三年の出版にて貞之の画なり。)といへる紅摺の絵草紙出版せり、世に疱瘡絵と称するものこれなり。

○文政十年 ○六月、勝川春好歿す。(春好は勝川春章の門人にして俳優似顔絵を善くし、師の春章と共に壺形の印章を用ひたるより小壺と称せらる。四十餘歳にして中風病に罹りしより左筆となり、晩年は振はずして終れり、門人、春扇、亦後に春好と称せり。)

○此年、肥前國生まれにて大空武左衛門といへる大男江戸に来る。時に歳二十三歳。身の丈七尺五寸、体重三十五貫目、錦絵に画きたるあり。蹄齋北馬の俳句に、大空のしぐれ飴

屋の傘借らん、といへるあり。此の武左衛門を詠めるなり。

○文政十一年 ○五月二十三日、歌川豊廣歿す。歳六十四歳。(豊廣は歌川豊春の門人として豊國と共にその高弟たり。芝片門前町に住し、通称岡島藤次郎、一柳齋と号せり。俳優似顔を画かずして美人画を善くせり。豊國は市井の美人を善くするに反し、豊廣は士分の美人を描くに巧みなりき、豊國とは同門なれども共に常に中違勝ちなりしを、式亭三馬、嘗て「一對男時花歌川」といへる合巻物を作り、豊廣と豊國とに挿画を画かせて仲直りの労を取りし事あり。書名の一対男は即ち歌川派の画工として、その流行といひ豊廣と豊國とが一對の男なりといふ意なり。豊國は門人に國貞と國芳を出だせるに豊廣は廣重を出だせり。又、子息に金藏豊清ありしも早世せり。) ○十一月二十一日、酒井抱一歿す。行年六十八歳。

○文政十二年 ○七月二日、細田榮之、歿す。行年七十三歳。(榮之は幕府の勘定奉行細田丹波守三世の裔、弾正時行の長子にして、名は時富、治部卿と称せり。禄は五百石を賜わりし家柄の出なり。初め画を狩野榮川院典信に学び、後一流の浮世絵画家となれり。号は鳥文齋、版画よりは肉筆画に富み、多く美人殊に遊女を画けり。) ○六月六日、狂歌堂眞顔歿す。行年七十七歳。○(雁註) 曲亭馬琴、馬琴日記の文政十二年二十一日の項に「夕方、芝片門前画工歌川豊廣家内より、使を以、豊廣事、昨夜病死いたし候二付、明廿二日干る九時送葬のよし、しらせ来ル。相応之挨拶いたし遣ス。とり次おみち也。但、此節無人、且、病人有之時がら、遠方故、速に弔しがたかるべし。」[曲亭馬琴(原著)、暉峻康隆、木村三四吾(校訂)、昭和48、馬琴日記第二、262頁、中央公論社](鈴木重三先生の御指摘)。

○天保元年 ○歌川国輝、生る。(明治七年二月十五日歿す。行年四十五歳。) ○閏三月二十四日、六樹園飯盛、歿す。行年七十八歳。○十一月二十日、高嵩月、歿す。行年七十五歳。(嵩月は嵩谷門人なり。)

○天保二年 ○河鍋暁齋、生る。(明治二十二年五月歿す。行年五十九歳。) ○八月七日、十返舎一九、歿す。行年六十八歳。(十返舎一九は駿河の産にして江戸に住し、戯作者を以て名あり。膝栗毛は実に其の作なり。浮世絵を画き「江戸名所」はその傑作なり。寛政の頃、自作の黄表紙に多く画けり。画は拙にして榮水、一雅などと同格なり。姓は重田氏、名は貞一、通称與七、幼名幾次郎といふ。十偏舎又十返齋とも署せり。) ○此ころ、葛飾北齋、信州高井郡小布施村に到り、門人高井三九郎の家に寓し、居ること一年あまりなりしといふ。

○天保三年 ○此年、六代目鳥居清満(五代目の男)生る。○七月六日、歌川國安歿す。行年三十九歳。(國安は江戸の人にしてとよくにの門人なり。俗称安五郎、一鳳齋と号せり。一時、西川安信と号せりといふ。) ○此年、春英門人、春幸、旭松井春章と名乗り、二代春章となる。○閏十一月二十八日、柳川重信歿す。行年四十六歳或いはいふ五十餘歳と。(重信は北齋の門人にして、その女婿となり雷斗の号を譲らる。俗称、鈴木重兵衛といひ、本所柳川町に住せりより柳川を以て姓とせり。馬琴の里見八犬傳の挿画は重信、英泉、貞秀などの画くところなり。)

○天保四年 ○四月十四日、尾張の大石眞虎歿す。行年四十二歳。○此年、長谷川雪旦の画に成れる「江戸名所図会」梓行。奥附に天保五年甲午孟春とあれば、天保五年の條に載

すべきものなれども、著者齋藤月岑、武江年表に自ら天保四年の條に載せあれば此に掲ぐ。序文は又亀田長梓、松平冠山公、片岡寛光などにて、いづれも天保三年なり。此を以て見れば天保四年中には全く成りて天保五年春より市中に出だせるなり。為に出版物の前後は一、二年の間は争ひがたきものなるを知るに足るなり。

○天保五年 ○四月十五日、石川清澄、歿す。行年四十九歳。(六樹園の男にして狂歌師なるが、亦浮世絵もいささか画きたり。)

○天保六年 ○十一月二日、本郷豊國歿す。行年五十九歳。(本郷豊國は初代豊國の門人にして、二代豊國と成れり。本郷春木街に住せるを以て本郷豊國と称せられ、亦通称源藏なるを以て源藏豊國とも称せらる。二代豊國と称せるは師の歿後、五、六年間なり。(一龍齋、後素亭、一瑛齋などの号あり。三代豊國は即ち五渡亭國貞なれども亦國貞を二代豊國と認むるの説あり。)

○此年、葛飾北齋相州浦賀に潜居し、姓名を三浦屋八右衛門と称せり。

○天保七年 ○三月七日より、岩代柳津の虚空藏菩薩淺草寺念仏堂にて開帳す。此時、会津の産にて七歳の三ツ子、日々開帳場へ見世物に出づる。長男鶴松、二男竹松、三男亀松といへり。此の三つ子を見て、日尾 山「品生談」を著はせり。又、一枚絵にも画かれたるあり。

○天保八年 ○此年、芳虎(國芳門人)の画ける一枚錦絵「道外武者御代の若餅」出版。画様は織田信長、明智光秀と共に餅をつき、其のつきたる餅を豊臣秀吉が、のし板にて、のし、徳川家康らしき武者が其の餅を食ひ居るところにして、織田、明智、豊臣など千軍萬馬の間を往来して平定したる天下を徳川家康が、ゐながら取りしを諷せし画なる事は誰か目にも悟り得らるる者なれば、幕府の命にて木版は焼棄され、画工芳虎は手鎖五十日の

刑に処せられしといふ。

○天保十年 ○月岡芳年、生る。(明治二十五年六月九日歿す。行年五十四。)
○此年、一立齋廣重の画ける相州江ノ島弁材天開帳参詣群集図三枚続の錦絵あり。又、岩屋の図、七里濱の図などあり。

○天保十三年 ○六月、國貞の画にて種彦の作なる「倭紫田舎源氏」を出版せる鶴屋喜右衛門、町奉行所に召喚せられ板木取り上げられ且つ所払いの刑に処せらる。作者種彦は調べ中、翌七月、此の事を苦に痛みて歿せり。當時は水野越前守忠邦、諸政改革の折とて六月の禁令中に、「自今新板書物の儀、儒書仏書神醫書歌書、都て書物類其の筋一通の事は格別、異教妄説を取り交へ作り出し、時の風俗、人の批判などを認め候類、好色画本など堅く可爲無用事」といふ箇條あり。○又、六月四日、幕府、絵草紙人情本などの取締令を下し、俳優妓女などの一枚摺、錦絵の刷行並びに売買を禁じ、且つ合巻絵双紙の絵組に俳優の似顔狂言の趣向を用ひ、或いは表紙上包に一切彩色を施す事を厳禁せり。又、七月、更に令を発し、人情本の売買賃賃を禁止し、書肆藏する所の其の書冊併せて板木を歿収せらる。○十一月晦日、幕府、又令を書肆組合世話掛名主に下し、合巻絵草紙の類、都て草稿中に掛かりの名主番の認印を受け、出版の際検定せしむる事とせり。○此年、又爲永春水作の人情本或いは春画本にて國直、國貞などの画けるもの、絶版の命を受け、其の板木焼棄せられたるもの五車程ありしといふ。

○天保十四年 ○鮮齋永濯生る。(小林氏、明治二十三年五月二十七日歿す。行年四十八歳。)
○正月二十八日、長谷川雪旦歿す。(行年六十六歳) ○十二月二十一日、英一珪歿す。(行年八十餘歳)。○此年、一勇齋國芳の画ける三枚続きの錦絵「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」と題せるもの絶版の命を受けしといふ。此絵は源頼光土蜘蛛の怪に悩まさるところにして四天王燈下に

○弘化元年 ○八月十六日、有阪北馬歿す。行年七十四歳。(天保十一年八月成れる「狂歌続歎娛集」に七十一歳蹄齋北馬筆と署しあれば、今年は七十五歳なるが如し。北馬、俗称有阪五郎八、本姓星野、駿々齋、秋園などの号あり。北齋の門人なえども、谷文晁と交友あり。版画も少なからざれども北齋門中、肉筆の作の多きは北馬に及ぶ者なし。○七月二十八日、俳諧師、田喜庵護物歿す。行年七十三。

○弘化二年 ○十二月、三代廣重生る。(明治二十七年三月二十一日歿す。行年五十三。)
○九月、江戸麻布にて唐黍の実変じて 冠の如き形となりしを諸人恠みて、國芳などは錦絵にまで画きたり。(色灰白にて柔らかく田舎には能くある物にて十に二、三は出来るものなり。珍しき物にはあらず。)

○弘化四年 ○八月一日、小林清親生る。(大正四年十一月二十九日歿す。行年六十九。)
○此年三月八日より、信州善光寺如来の開帳。三月二十四日夜に入りて大地震、人馬多く死す。錦絵に鯨を画きて種々所作を附加せるは此年の出版に係れるもの多し。

○嘉永元年 ○七月二十二日、池田英泉歿す。行年五十七歳(姓は池田、溪齋と号し名は義信。通称善次郎、又一筆庵可候と号して戯作をものし、無名庵と号しては教訓物、或いは随筆殊に無名庵隨筆は古来より當時に至る間の浮世絵師の略傳なり。)
○十一月六日、曲亭馬琴歿す。行年八十二。○此年、葛飾北齋、八十九歳にして浅草聖天町遍照院境内に住す。

○嘉永二年 ○四月十八日、葛飾北齋歿す。享年九十。

○嘉永三年 ○四月九日、魚屋北溪歿す。行年七十歳(北溪、姓は岩窪、俗称初五郎、又金右衛門といひ、北齋また葵岡と号せり。葛飾北齋の高弟なり。魚商を生業とせしを以て魚屋と称す。)
○宮武外骨氏の「筆禍史」に浮世絵師説諭と題して下の記事あり。同年(嘉永三年)八月十日、錦絵の認め方につき、浮世絵師、数名、役人の糺問を受けたる事あり。「御仕置例題集」によりて其の憐愍書の一節を左に録す。

一體、絵類の内、人物不似合の紋所など認め入れ、又は異形の亡霊など紋所を付け其の外、時代違いの武器、取り合せ、其の外にも紛敷く兎角、考為合、買人に疑察爲致候 様専ら心掛候哉に相聞え殊に絵師共の内、私共別て所業不宜段入御聴、重々奉恐入候。今般の御沙汰、心魂に徹し恐縮仕候。以下、尚、長々と認め、此度限り特別に御憫察を乞ふ旨を記せり。其の連名、左の如し。

新和泉町又兵衛店

國芳事 孫三郎

同人方同居	芳藤事 藤太郎
南鞘町六左衛門店	芳虎事 辰五郎
本町二丁目久次郎店清三郎弟	芳艶事 萬吉
龜戸町孫兵衛店	貞秀事 兼次郎

南隠密御廻定御役人衆中 様

隠密といへるは現今の刑事巡査(探偵)の如き者なり。浮世絵師、数名は、あやまり証文にて起訴さるる事もなく、平穩に済みたるなり。と。

○嘉永五年 ○此年三月、一勇齋國芳の画ける、彩色を以て有名なる錦絵、橋本屋白糸の像、出版。彫刻師は彫竹、版元は赤坂の金吉なり。(武江年表、本年の條に「猿若町二丁目、市村羽左衛門が芝居にて、享和の頃、青山辺りなる鈴木主水といふ武士、内藤新宿の賤妓、白糸と俱に情死せしこと俗謡に残りしを狂言に、しくみて興業しけるが、殊の外、繁昌しければ、俳優二代目坂東秀佳、内藤新宿北裏通、成覚寺へ、白糸が墳墓を営みたり」とありて、此の國芳の画ける白糸に扮せる像は坂東秀佳の似顔なり) ○此年、國政(二人あり、初めの國政にあらず)二代國貞と称す。○又、武江年表本年の條に豊國(初代國貞をいふ)が筆にて天明の頃より文化頃までの俳優似顔絵を梓行せしむ」とあり。即ち「俳優見立五十三次」をいへり。

○嘉永六年 ○此年、六月二十四日、柳橋の西なる料理店河内屋半次郎が樓上にて、狂歌師梅の屋株翁が催せる書画会の席にて一勇齋國芳、酒興に乘じ、三十畳程の渋紙へ、水滸伝中の人物、九紋龍史進憤怒の像を画き、衣類を脱ぎ絵の具に、ひたして彩色を施せりと

いふ。文化十四年、葛飾北齋が名古屋にて画ける達磨の大幅と共に好一对の奇談といふべし。○此年、七月、國芳「浮世又平名画奇特」といへる錦絵を画き、板元と共に過料錢申し渡さる。即ち「続々泰平年表」嘉永六年の條に「癸丑七月、國芳筆の大幅津絵流布す。此絵は當御時世柄、不容易の事共差し含み相認め候判詞物のよし、依之売捌被差留筆者板元過料錢被申渡」とあり。○此年、又、國芳「難病療治」の錦絵を画き発売禁止されしといふ。

○安政元年 ○六月二十八日、歌川國直歿す。行年六十二。(國直は豊國の門人にして俗称、鯛藏といひ、一烟齋、独醉舎、柳烟樓、浮世庵などの諸号を有せり)

○安政二年 ○八月十一日、沖一峨歿す。行年五十八。○一壽齋國政(二代國政)初代國貞の長女なべ女の婿と成り、二代國貞と改むといふと或る書に見ゆれども、二代國貞と称せるは此年より以前の事なり。○十月二日、江戸大地震、爲に「地震並出火細見記」「大地震曆考」などの絵入本出づ。その一枚物の摺物、三枚続きの錦絵など出版になれる其の数を知らず(「安政見聞録」は翌年出版)

○安政三年 ○十二月二十日、喜多武清歿す。行年八十一。(武清は文晁の門人なれども、読本などにも画けるあり)○十二月五日、墨川亭雪麿歿す。行年六十。戯作者なれども月麿に浮世絵を学べり。

○安政五年 ○九月六日、一立齋廣重歿す。享年六十二。(或いはいふ六十一歳と。)此年、夏より虎列刺病流行し、廣重も此病にて歿せりといふ。其の他、知名の人にて同じく虎列刺にて歿せるは山東京山、柳下亭種員、樂亭西馬、五代目川柳、鈴木其一などなり。(廣重は安藤氏、俗称徳太郎、又徳兵衛といひ、江戸八重州河岸定火消屋敷の同心安藤徳右衛門の子なり。十五歳にして歌川豊廣の門に入り、一幽齋、一遊齋などの号あり。文政

の末、一立齋と改め、又、立齋とも号し「立齋百画」などもあれど多くは一立齋と号し、単に立齋と号せるは二代廣重なり。○九月、葛飾爲齋の画に成る「日蓮上人一代図会」出版。松亭金水の著述なり。此の書、明治二十一年に至りて画工の爲齋の爲の字を削り、北の字を填板して葛飾北齋の画として売り出だせり。此書、爲齋の傑作にして北齋に劣らぬ程の名画なるに、世俗北齋のみを崇拜して爲齋を顧みざるをもて、爲齋の名を埋没せしめたるは己の利を計りて他の名を永久に葬りたる悪みても餘りあり。此書肆は東京の御徒町の金兵衛なる者なるが、名古屋の書肆文助なる者が、北溪の画ける傑作「狂歌東關驛路鈴」を「北齋道中画譜」と改題して販売せると一対の奸策なり。

○万延元年 ○十二月十七日、大坂の暁鐘成歿す。行年六十八歳。(姓は木村、俗称弥四郎、名は明啓、暁晴翁、鹿の屋眞萩、漫戲堂などの号あり。戯作狂歌を能くし、又浮世絵を画けり。丹波福知山に遊び藩主の失政あるを見て、人民の為に訴状、檄文などを草し、獄に投ぜられ、遂に獄中に死せりといふ。○此年、國芳の門人一寶齋芳房歿す。行年二十四。

○文久元年 ○三月五日、一勇齋國芳没す。行年六十五歳。(國芳は初代豊國の門人なり。江戸神田に生まれ、姓は井草、俗称孫三郎、一勇齋又朝櫻樓とも号し、歌川派中、玉蘭齋貞秀と共に武者絵に堪能なり。)

○元治元年 ○十二月十五日、初代歌川國貞歿す。行年七十九。(國貞は初代豊國の高弟にして三代豊國となれり。姓は角田、俗称庄藏、本所五ツ目の渡船場の株を有せし人にて五渡亭と号して、又香蝶樓とも号せり。師の豊國と同じく役者似顔を画くに堪能なり)

○慶應三年 ○菊川英山、歿す。行年八十一。(英山は溪齋英泉の師なり。名は俊宣、俗称は近江屋萬五郎、重九齋の号あり。錦絵に美人を画けるを見れども、図書には稀に見るところにして、文久三年七十七歳の高齡を以て画きたる「江戸大節用海内藏」といへる大本二冊あり。) ○十月九日、鳥居清行歿。行年三十二。